

# 上士幌町第2期子どもの読書推進計画

(令和3年度～令和7年度)

令和 3年 3月

上士幌町教育委員会

# 上士幌町第2期子どもの読書推進計画 目次

## 第1章 計画策定の基本的な考え方

- 1 基本方針
- 2 計画期間
- 3 計画の対象及び各発達段階の取り組みの特徴

## 第2章 「上士幌町第1期子どもの読書推進計画」期間における読書推進状況

### 1 子どもの読書に関する本町の現状と課題

#### (1) 読書アンケート調査結果

- 1) 読書アンケート調査概要
- 2) 児童・生徒アンケートからみる現状と課題
- 3) 保護者アンケートからみる現状と課題

#### (2) 上士幌小学校読み聞かせボランティア アンケート調査結果

- 1) 上士幌小学校 読み聞かせボランティア アンケート調査概要
- 2) 上士幌小学校 読み聞かせボランティア アンケートからみる現状と課題

### 2 子どもの読書推進のための方策に関する本町の現状と課題

## 第3章 重点目標と基本施策

- 1 重点目標
- 2 基本施策
- 3 目標とする指標の設定

## 第4章 子どもの読書推進のための方策（目標達成のための具体的施策）

### 1 「いつも身近に本がある」環境づくりを進める取り組み

- (1) 有機的につながる読書のネットワークづくり
- (2) 認定こども園における図書の実方策
- (3) 小学校、中学校における図書の実方策

### 2 子ども自身が読書の大切さを実感できる取り組みの促進

- (1) 全児童生徒で取り組む読書活動
- (2) 地域で進める子どもの意識啓発

### 3 家庭での読書を広めていく取り組み

- (1) 保護者の意識を高める取り組みの推進
- (2) 地域における保護者の支援体制の実方策

## 第5章 参考資料

## 第1章 計画策定の基本的な考え方

### 1 基本方針

「子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことができないもの」<sup>1</sup>です。国においても、読書の重要性を鑑みて、平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」を制定し、社会全体でその推進を図っていくこととしました。それを受けて北海道も、平成15年11月に、「北海道子どもの読書推進計画」を策定し、現在、平成30年3月からの5年間を計画期間とする「北海道子どもの読書活動推進計画<第四次計画>」により施策を推進しています。上士幌町でもそれらを参考に平成28年1月に「上士幌町第1期子どもの読書推進計画」を策定し、子どもの読書環境の整備等を進めてきました。第2期計画は、第1期計画での課題等を踏まえ、今後の5年間の子どもの読書活動推進に関する計画として策定し、上士幌町の子どもの読書活動施策の充実に取り組んでいきます。

### 2 計画期間

令和3年度から令和7年度までの5年間とします。

ただし、他の計画や社会情勢の変化等により見直しが必要と判断した場合は見直しを行います。

### 3 計画の対象及び各発達段階の取り組みの特徴

計画は、おおむね18歳以下の子どもとします。なお、子どもの各発達段階における取り組みの特徴を、本計画では下記のとおりとします。

#### ◆乳幼児期～小学校低学年（0歳～8歳）「本と出会い、楽しさを知る」

乳幼児期から小学校低学年にかけては、特に読み聞かせを通して本と出会い、本との触れ合いを作っていく期間とします。本の楽しさを体感していき、その後の人生で本から様々なことを学んでいく素地を作ります。

#### ◆小学校中学年～小学校高学年（9歳～12歳）「本から学ぶ術を知る」

小学校低学年までに本の楽しさを体感し、本から様々なことを学んでい

---

<sup>1</sup> 「子どもの読書活動の推進に関する法律」第2条より

く素地を作ったら、その後は自らの成長に応じて本から様々なことを学んでいきます。特に小学校中学年～高学年は、身近に本がある環境の中で、「本から学ぶ」術を身に付けていく期間とします。

◆中学生（13歳～15歳）「生活の中で本から様々なことを学ぶ」

中学生は、学校での学習や部活動により、学校で生活する時間や家庭学習に要する時間も増えていく中で、読書をする時間を確保するのが難しい傾向にあります。よって、「読書」が特別なものではなく、生活の一部としながら、様々なことを学んでいける力を身に付ける期間とします。

◆高校生（16歳～18歳）「図書館の活用を知る」

高校生からは、学校教育が終わってからも「生涯学習」の観点に立ち、本から様々なことを学んでいけるよう、図書館の機能を積極的に活用できる方法を習得する期間とします。

第2章 「上士幌町第1期子どもの読書推進計画」期間における読書推進状況

1 子どもの読書に関する本町の現状と課題

(1) 読書アンケート調査結果

1) 読書アンケート調査概要

「上士幌町子どもの読書推進計画」の進捗度合、達成度を計り、本町の課題を明らかにするために、平成28年度から毎年読書アンケート調査を実施しています。

調査年度	調査期間	回答者数（人）						
		こども園 保護者	小学2年 保護者	小学5年 保護者	中学2年 保護者	小学 2年生	小学 5年生	中学 2年生
H28年度	2/20～3/3	43	30	8	24	33	35	37
H29年度	1/22～2/2	79	18	34	12	27	43	10
H30年度	1/21～2/1	66	15	26	38	31	44	47
R元年度	1/31～2/14	56	19	20	13	42	37	37

2) 児童・生徒アンケートからみる現状と課題

学年が上がるにつれ読書量が少なくなる傾向にあり、小学校高学年、中学生の不読率が高くなっています。読まない理由として「少年団や部活動が忙しい」「他にやりたいことがある」などといった時間的余裕がないこと、読書

の優先順位が低いことが挙げられています。今後、図書館が中心となり、図書館・学校（認定こども園を含む）・家庭・地域が読書活動についての情報を共有し、定期的に個人・各組織が課題等を確認する場を設け、各組織や地域住民が連携することができる体制構築が必要となります。個人・各組織ではなく、地域全体で子どもの読書活動を支え、子ども達が自主的に読書活動を行うことができるよう、発達段階に応じた読書の取り組みを実施することが必要です。

### 週にどれくらい本を読みますか？（小学2年生）

	1～2日	3日	5日以上	あまり読まない
平成28年度	26%	21%	12%	41%
平成29年度	30%	44%	15%	11%
平成30年度	48%	23%	3%	26%
令和元年度	31%	33%	12%	24%

### 週にどれくらい本を読みますか？（小学5年生）

	1～2日	3日	5日以上	あまり読まない
平成28年度	25%	28%	22%	25%
平成29年度	24%	34%	18%	24%
平成30年度	34%	25%	32%	9%
令和元年度	19%	24%	14%	43%

### 月にどれくらい本を読みますか？（中学2年生）

	1～3冊	4～6冊	7～10冊	11冊以上	読まない
平成28年度	63%	17%	9%	9%	9%
平成29年度	63%	25%	0%	0%	13%
平成30年度	65%	7%	4%	13%	11%
令和元年度	41%	5%	0%	3%	51%

### 3) 保護者アンケートからみる現状と課題

児童アンケートの結果同様、「家事や仕事に追われ読書する時間的余裕がない」と答える保護者の回答が多くみられました。働き盛りの多くの保護者が、読書をするための時間を捻出することができないと感じているようです。また、パソコン・スマホ・タブレットが普及し、読書への関心は希薄に

なっており、保護者自身も普段読書を行っていない状況が見受けられます。課題として、各組織・個人と連携し取り組む読書活動の推進、親子で楽しむことができる読書イベントの企画・周知方法の検討、家庭への読書活動の啓発が挙げられます。地域全体で子どもの読書活動を支え、親と子どもが共に楽しむことができる読書活動の推進を目指す必要があります。

**月にどれくらい本を読みますか？（こども園保護者）**

	月1～2冊	月3～4冊	月5～10冊	月10冊以上	読んでいない
平成28年度	29%	10%	2%	0%	59%
平成29年度	49%	6%	1%	0%	44%
平成30年度	36%	12%	7%	3%	41%
令和元年度	50%	7%	0%	4%	39%

**月にどれくらい本を読みますか？（小学2年生保護者）**

	月1～2冊	月3～4冊	月5～10冊	月10冊以上	読んでいない
平成28年度	24%	10%	0%	0%	66%
平成29年度	39%	0%	6%	0%	56%
平成30年度	38%	0%	0%	0%	62%
令和元年度	28%	11%	6%	6%	50%

**月にどれくらい本を読みますか？（小学5年生保護者）**

	月1～2冊	月3～4冊	月5～10冊	月10冊以上	読んでいない
平成28年度	50%	13%	13%	0%	25%
平成29年度	44%	6%	0%	3%	47%
平成30年度	38%	8%	0%	4%	50%
令和元年度	25%	5%	0%	0%	70%

## 月にどれくらい本を読みますか？（中学2年生保護者）

	月1～2冊	月3～4冊	月5～10冊	月10冊以上	読んでいない
平成28年度	54%	21%	0%	0%	25%
平成29年度	42%	17%	0%	0%	42%
平成30年度	50%	15%	3%	3%	29%
令和元年度	15%	15%	0%	0%	69%

### (2) 上士幌小学校 読み聞かせボランティア アンケート調査結果

#### 1) 上士幌小学校 読み聞かせボランティア アンケート調査概要

「上士幌町第2期子どもの読書推進計画」の策定に向け、上士幌小学校で読み聞かせ活動に参加している保護者・地域の方を対象に、読書ボランティア活動についてアンケート調査を実施しました。

(ア) 対象者：上士幌小学校 読書ボランティア

(イ) 調査期間：令和2年6月12日（金）から令和2年6月30日（火）

(ウ) 回答者数：7名

#### 2) 上士幌小学校 読み聞かせボランティア アンケートからみる

##### 現状と課題

現在、小学校の保護者、ゆめ育応援団として活動されている地域の方、あわせて10名程のメンバーが小学校での読書活動に参加しており、絵本の読み聞かせやブックトーク、読書活動の紹介等、子どもたちが本と触れ合う機会をつくり、読書の大切さや魅力を伝えています。

読書ボランティアの中には、子どもが小学校を卒業すると同時に、小学校での読書活動から離れる保護者もあり、今後、持続可能な読書活動を行うために、新たな読書ボランティアの参加が大きな課題になります。また、読書ボランティアが学校で活動する際、ボランティアと学校が直接調整を行うことは双方にとって負担が生じるため、「今後も読書コーディネーターが中心となり、学校と日程調整を行ってほしい」という声が多くありました。

読書コーディネーターが、学校と読書ボランティアとをつなぎ、学校・家庭・地域が連携した読書活動を継続できるよう、今後も読書コーディネーターとして従事する人材の確保も課題の一つとなります。

「読み聞かせボランティア」の日程調整等は読書コーディネーターが行っている。現在の方法でご自分の負担になると思われることはありますか？

負担がない	負担がある
7	0

読書コーディネーターがいなかった場合は読み聞かせボランティアをされていましたか？

していない	していた
6	1

## 2 子どもの読書推進のための方策に関する本町の現状と課題

第1期の計画で掲げた目標達成のための具体的施策について実績評価を振り返り、本町の現状と課題を整理します。

### 「いつも身近に本がある」環境づくり

#### (ア) 有機的につながる読書のネットワークづくり

子どもの読書アンケート結果については教育委員会、校長・教頭会、社会教育委員の会議で報告し、情報共有を行っています。

社会教育委員の会議においては、図書館事業についても報告しています。社会教育委員の会議以外にも、関係機関・団体との図書館事業も含めた情報共有や連携の場面を深める課題があります。

#### (イ) 認定こども園における読書の充実方策

認定こども園の継続的な蔵書の充実を図るため「ふるさと納税子育て・少子化対策夢基金」を活用し、新刊の購入や劣化した本の更新を行いました。絵本の蔵書数も安定したことで、絵本とは異なる形で物語等に触れる機会を増やすため、パネルシアターやエプロンシアターなども購入しています。今後も長期的に本の入れ替えを図り、子どもの興味にあわせて、ALT（外国語指導助手）や国際交流推進員による読み聞かせ、図書館との連携も深め、身近に本のある環境づくりを進める必要があります。

#### (ウ) 小学校、中学校における図書の充実方策

読書コーディネーターの配置によって、各小中学校の図書担当教諭と連携し、図書室の整備を行い、上土幌小学校においてはブックトラック（移動式書架）を配置しました。また、読書コーディネーターは読書普及活動の推進とし



て、絵本作家を招いたイベントや朝の読書活動等のボランティア活動の調整等を行いました。

学校の多岐にわたる業務内容を鑑み、学校教諭の負担を軽減しながら読書活動を進めて行くためにも、継続して各学校と図書館をつなぐ読書コーディネーターを配置し、子どもの読書活動を進めることが求められています。

前計画の中で、上士幌小学校の図書室を町内小学校の中核図書室として位置付けて蔵書の充実を図りました。その結果、上士幌小学校においては、令和2年度、学校図書館図書標準冊数を達成することができました。今後は、学びのスタイルの変化や社会情勢に合わせて、活用される蔵書の充実が望まれます。一方で、上士幌中学校では、図書の蔵書率は上がってきているものの、学校図書館図書標準冊数には達していません。今後も継続的な蔵書の充実が必要です。

## 「子ども自身が読書の大切さを実感できる取り組みの促進」

### (ア) 全児童生徒で取り組む読書活動

認定こども園での読書活動の促進として「行事の前」や「活動前後」、「給食前活動」等の導入に絵本や紙芝居、パネルシアターなどを活用しています。PCTA（P=保護者 C=地域 T=教師 A=組織）と連携した読み聞かせやお話会「カッコウ」による読み聞かせなど、地域の方との触れ合いを通して、家庭で読む本以外の読書へ取り組むきっかけづくりを行っています。また、認定こども園では、幼少期の発達段階に合わせ、生活の中で本に自然と触れる機会の充実を図っています。その結果、小学生になる段階で「本が好き」と答える児童の割合も高い状況です。

小学校では、「上小っ子タイム」という朝の活動の中で、定期的に本に触れる活動に取り組んでいます。また、発達段階に合わせて、読書コーディネーターが中心となり、地域のボランティアによる読み聞かせやブックトークを行っています。

中学校では、毎朝10分程度の時間を先生と生徒が一斉に本を読む「朝読」の活動を行っています。

学童保育所では、新生涯学習センター内に移転されたことで図書館行事への積極的参加や学校の長期休業中の支援員等による継続的な読み聞かせを実施しています。

今後も継続して活動を行うための仕組づくりが必要です。

### (イ) 地域で進める子どもの意識啓発

事業の周知は町の広報「図書館だより」や町ホームページなどで行っています。来館しない方への周知や利用者への関心をより引き出すためにも、関係する機関との連携を深め、読書推進の機運を高める機会を増やすことが必要です。

新生涯学習センターの機能を活かした事業展開として、新たに学童保育所が移転したことによる図書館イベントへの参加の高まりがみられました。今後も連携を深めながらイベント等の企画を考える必要があります。

除籍本を利用して、北海道家庭教育サポート企業に登録された企業に本を設置し、町の中での図書環境の充実を図る取り組みを行ったところ、資料の活用頻度の高まりはありませんでした。登録企業の職員に各種事業等で協力してもらうなかで、仕事内容を本と一緒に紹介するといった「人的資源の活用」等の方向でも連携した取り組みの促進を模索する必要があります。

## 「家庭での読書を広めていく取り組み」

### (ア) 保護者の意識を高める取り組みの促進

保護者の学ぶ機会の充実として講演会事業を行いました。親子で一緒に参加できる体験や絵本作家講演会は継続を望む声も多く、作品世界への理解と親しみを深める大きなきっかけとなっています。事業の前後で効果的な情報発信を通して、さらに本に対する関心が高まるように努める必要があります。

### (イ) 地域における保護者の支援体制の充実

地域全体で取り組む読書環境の整備として、コミュニティスクール登録の団体企業への除籍本の配布を行いました。より多くの地域住民と図書館をつなぐ取り組みとして、図書館の利用案内を様々な場所へ置くなどの工夫をはじめ、開かれた図書館づくりに努める必要があります。

子どもの居場所となる図書館づくりとして、児童書、絵本の充実をはじめ、「お話会」「めざせ！昆虫博士」「映画会」等、子どもたちを対象とした各種事業等を行いました。今後もより多くの子どもに図書館に行きたいと思ってもらえるような環境づくりを進めることが必要です。

## 第3章 重点目標と基本施策

### 1 重点目標

子どもたちが各発達段階を通じて本に触れ合い、本に楽しめるような姿勢を

育むためには、乳幼児期から小学校低学年までに、その素地を養うことが重要です。この素地をもとに、発達段階に応じた「本」との出会いを通じて、心豊かに生きるために必要な様々なことを吸収し、豊かな人生を歩むことにつながります。

(1) 乳幼児期から小学校低学年までの子どもが、より本の楽しさを体感できるように、本と触れ合うための環境整備と充実を進める。

(2) 小学校中学年から中学生までの子どもが、自らの興味、関心に沿って本から様々なことを学ぶ図書の実備充実を務める。

## 2 基本施策

重点目標を達成するため、3つの基本施策を定めます。

### (1) 「いつも身近に本がある」環境づくり

子どもたちが多くの時間を過ごす学校（認定こども園を含む）や学童保育所、地域の読書推進の中核的な役割を果たす図書館をはじめとして、家庭、地域の全てが、子どもにとっていつも身近に本がある環境となるように務めます。

### (2) 子どもの意識啓発の促進

環境づくりと一体となって、子ども自身が読書の重要性を知り、読書が好きになる意識を啓発していくため、子どもが多くの時間を過ごす学校（認定こども園を含む）、学童保育所、地域の中核施設としての図書館を中心に施策を推進します。

### (3) 乳幼児の保護者への意識啓発の促進

特に就学前の子どもが本に親しみ、本を好きになるためには、家庭での保護者の姿勢が重要です。「ひとり親家庭」も含む核家族化、共働き世帯の増加している現在の実態を踏まえつつ、保護者への意識啓発を一層促進していきます。

### 3 目標とする指標の設定

基本施策を推進することで、下記の指標を達成することを目指します。なお、教育委員会において引き続き毎年アンケート調査を実施し、目標とする指標の達成度合いを確認します。

#### ◆小学生

読書が好き	1週間の読書日数（10分以上）		学級文庫利用 1週間一冊以上	学校図書室利用 1週間1回以上
	あまり読まない	毎日読む		
全学年 70%以上	全学年 25%以下	全学年 20%以上	全学年 70%以上	全学年 70%以上

#### ◆中学生

読書が好き	1か月の読書冊数（10分以上） 読まない	学校図書室利用 ほとんどいかない
全学年 70%以上	全学年 10%以下	全学年 50%以下

#### ◆家庭

認定こども園家庭1週間の 読書日数（冊数）		保護者の読書量 1か月1冊以上	図書館読み聞かせ活動
読んでいない	ほぼ毎日読む		
全クラス 25%未満	全クラス 40%以上	60%以上	令和元年度実績を維持

## 第4章 子どもの読書推進のための方策（目標達成のための具体的施策）

### 1 「いつも身近に本がある」環境づくりを進める取り組み

#### (1) 有機的につながる読書のネットワークづくり

図書館、学校（認定こども園を含む）、読書に関わる関係団体、読書に関する個人ボランティアなどはそれぞれの取り組みを深める中で、それぞれが「ゆるやかなつながり」をもって活動を進めてきました。平成28年4月に総合的な調整を行う「読書コーディネーター」が配置されたことにより、それぞれがもっている役割とニーズを前提としつつ、「ゆるやかなつながり」のなかで学校（認定こども園を含む）における図書の環境整備や読書活動等の仕組みづくりが行われてきました。

今後は、この「ゆるやかなつながり」を保ちつつ、情報の共有を行うとともに

に、この計画で定めた内容が進められているのかのチェック機能も果たしながら、全町を挙げて子どもの読書を定着させていくための取り組みを進めます。

#### ◆ 子どもの読書に関わる情報を共有する機会の創設

本町では今まで、学校（認定こども園を含む）や図書館、関係団体、関係ボランティアなど、それぞれが子どもに本の素晴らしさを広めていくための活動を進めてきました。しかし一方で、それぞれのニーズや活動内容などを共有する機会が乏しく、一緒に課題解決に向けて取り組む機会が不足していました。これらを踏まえて、今後は教育委員会生涯学習課図書館担当が事務局的な役割を果たしながら、各関係者、各関係機関、各事業の現状把握やニーズの共有、調整ができる機会を創設します。その機会のなかで本計画の進捗状況についても検証・評価を行い、子どもの読書を定着させていきます。

### (2) 認定こども園における図書の充実方策

認定こども園における絵本の充実は、「乳幼児期から小学校低学年までの子どもが、より本の楽しさを体感できるよう、本と触れ合うための環境を作る」という本計画の重点目標を達成するため、非常に重要となります。

絵本の充実に務め、令和元年度には蔵書数が安定したことからパネルシアター・エプロンシアターの購入を行っています。引き続き、子どもが自らの興味・関心に基づいて絵本を楽しむことができるよう、日々、絵本と親しむ取り組みを進めていきます。これらの取り組みの充実を図るために、下記を重点的に取り組みます。

#### ◆ 継続的な蔵書の充実

令和2年度において蔵書数は2,621冊になる予定です。新しい本の購入とともに、図書館の蔵書も活用できるよう連携を図ります。さらに今後においては人気のある本やロングセラーとなっている本の更新も必要になるため、予算の確保に務めます。

#### ◆ 図書館との連携

これまで図書館との定期的な関りや情報交換の場がありませんでした。

今後においては、読み聞かせ事業等でそれぞれが所蔵しているパネルシアター・紙芝居・しかけ絵本・布絵本・大型絵本等の貸し出しを行うことや読み手として職員やALTなども含めてお互いに協力をするなどしながら情報交換等を行うことで、子どもたちが様々な絵本を楽しむことができる環境づくりをすすめます。

### (3) 小学校、中学校における図書の実方策

本計画の重点目標を達成するためには、小学校低学年までの子どもが、いかに本を身近に感じ、本を楽しめる環境を作るか、ということが重要ですが、併せて、その養った素地を継続して伸ばしていく環境も重要です。平成21年に上士幌町教育委員会において策定した『かみしほろの健やかな育ち』においても、「あかるい学校」の中に、「読書大好き学びの基本」の項目が書かれています。

今後においても、読書コーディネーターを核とした読書ボランティアなどの地域人材や図書室の効果的な活用と、図書館と連携した学級文庫の取り組みを行うなかで、今ある環境をより充実させていきます。

#### ◆ 継続した「読書コーディネーター」の配置

図書館、認定こども園、各学校の読書に関する環境を計画的に整備していくためには、それぞれがもっている役割とニーズを前提としつつ、総合的な調整を行う人材が不可欠です。そこで、平成28年4月に「読書コーディネーター」を配置しました。横断的で総合的な調整の役割を担える人材として、上士幌小学校・上士幌中学校・上士幌高等学校において図書担当教諭と連携し、図書室等の環境整備や地域人材を活用した読み聞かせ事業等を展開してきています。このことは、中学生までに得た読書習慣を高校生となってからもより確かなものにし、主体的な読書活動を推進するために必要となる取り組みです。

今後においても配置を継続し、学校と地域とを結ぶ役割を担うとともに、これまで直接関わりの無かった認定こども園の状況を把握することで、より効果的な取り組みを行います。

#### ◆ 図書環境のさらなる充実

図書環境のさらなる充実は、子どもの身近に本がある環境を作り、生活

の中に図書を広めていくために必要不可欠です。

学校図書館図書標準に達成するよう、保護者等を含めた選書アンケートや選書イベントで、より子どもの興味・関心にそえる蔵書を充実させることはもちろん、図書の更新や定期的な入れ替えも必要になります。そのための予算の確保に務めます。

また、教科等の学習における図書館の効果的な活用も検討します。

## 2 子ども自身が読書の大切さを実感できる取り組みの促進

### (1) 全児童生徒で取り組む読書活動

近年、インターネット環境やその他の機器の発達は目まぐるしく、多くの子どもたちは、大量の時間をテレビやゲームに費やす生活をしており、子どもの成長発達に大きな影響を及ぼすことが懸念されています。

これらの生活の中で、読書の重要性を子ども自身が認識するためには、読書の楽しみを実感・体感する必要があります。そのために、下記の3点に取り組みます。

#### ◆ 認定こども園での読書活動の推進

幼児期に図書に触れ合うことは、子ども自身が読書を楽しむ素地を養うために非常に重要であることから、今後も保育教育の中で読書活動を進めていきます。また、「おすすめ絵本」の掲示方法等を工夫することや、図書館活用の方法を案内することでより多くの絵本に関心が持てるようにします。

#### ◆ 全校児童生徒で取り組む「朝読」の取り組み

各学校において「ひとり読書」「図書委員からの読み聞かせ」「ボランティアからの読み聞かせ」など学年に応じた様々な取り組みがされており、朝の段階で心を静めて1日の活動を始めるための大事な時間となっています。今後も継続した取り組みとなるよう務めます。

#### ◆ 学童保育所で取り組む読書活動

学童保育所は、平成29年度に図書館が併設されている新生涯学習センターに移転しました。その利点を生かし、図書館で開催するお話会事業に登所児童全員で参加するなどしています。今後においても図書館で開催

するお話会事業を充実させ、より魅力あるものとなるよう務めます。

また、図書館職員が「学童文庫」を定期的を選書し貸し出ししていますが、今後においては児童が自ら読みたい図書を選書できるような仕組みなどができないか検討します。

## (2) 地域で進める子どもの意識啓発

本町においては、これまで、図書館を中心に、毎月第2土曜日に実施している“お話会カッコウ”による「お話会」や図書館職員による読み聞かせ、「ジャンボ紙芝居づくり」、「にこよむチャレンジ」など、子どもが読書に親しむ事業を展開してきました。これらの取り組みを踏まえ、下記の2点の取り組みを進めます。

### ◆ 効果的な事業の周知と実施

図書館を中心に実施している事業は、子どもが読書の楽しさを実感できる機会を提供し、あるいは親子で読書の楽しさを共有できる時間を提供するものです。これを町内に広めていくためには、多くの参加者を得ることが重要です。町ホームページや図書館ブログ、広報誌等をより有効的に活用するとともに、それ以外の効果的な周知方法についても検討します。

### ◆ 新生涯学習センターの機能を活かした事業展開

複合施設である新生涯学習センターの機能を活かして、関係機関、関係団体と連携協力しながら、子どもが読書の楽しさを実感できる事業として、これまで単発で実施していた「としょかん体験の日」を発展させた「子ども司書」事業や読書と食育等をつなげる事業等の開催を進めます。

## 3 家庭での読書を広めていく取り組み

### (1) 保護者の意識を高める取り組みの推進

本計画で重点目標として位置付けた乳幼児期から小学校低学年までの子どもが本の楽しさを体感できるためには、保護者の読書に対する意識が重要です。『かみしほろの健やかな育ち』では、「家族みんなで夕べの読書」を明記し、



家庭で読書を楽しむことの大切さを位置付けています。この意識を町内に広めていくために、下記の点に取り組みます。

#### ◆ 保護者の学ぶ機会の充実と効果的な情報発信

本町においては、ブックスタート事業などを通して、等しく保護者が絵本の素晴らしさに気づく機会があります。しかし一方で、その気づきを一過性のものとししない取り組みも重要です。保護者が家庭の教育に読書を取り入れていくことの重要性を継続して学べる機会を提供します。そのためにも保護者への情報を効果的に発信できるよう、図書館、各学校（認定こども園）や子育て支援センターなどの組織・機関を活用した取り組みを進めます

#### (2) 地域における保護者の支援体制の充実

前述のとおり、現在は核家族化、共働き世帯の増加など、保護者が多忙な中で生活を送っており、家庭の中において子どもと読書を楽しむ余裕がないのが実情です。

この実情を踏まえれば、地域が家庭の読書を支援していく必要があり、下記の3点について取り組みを進めます。

#### ◆ 地域全体で取り組む読書環境の整備

町民も足を運ぶ道の駅かみしほろや起業家支援センター「h a r e t a」などの施設に「上士幌町図書館利用案内」の設置協力をしてもらうことから地域全体で子どもの読書環境整備を進める取り組みを広げていきます。

また、関係機関、関係団体や町内企業等と連携し、本と一緒に本に関連した人や仕事を紹介するような取り組みについて今後検討していくこととします。

#### ◆ 子どもの居場所となる図書館づくり

平成29年度より供用開始となった新生涯学習センターは、町民にとって「ふらっと立ち寄りたくなる」ような施設となることを目的のひとつとして設計されています。また、コンパクトシティを目指す本町においては、児童保育所も同館に移転されました。これを踏まえ、図書館が子どもや親

子の居場所となり、立ち寄りたくなるような空間となるよう環境づくりを進めます。

#### ◆ 利用しやすい図書館の体制づくり

平成 27 年度より、月曜日を除く祝日を試行的に開館とし、また月末休館日も平日としています。このことで年間の開館日数は増えていますが、利用増には至っていません。特に連続した祝日（ゴールデンウィークなど）については多くの方にとっては遠方へ出かける機会となっているほか、様々なイベントが開催されることなどから利用が伸びないという状況にあります。開館時間の延長や祝日開館とともに「本と触れ合う機会の増加」「本を選ぶ時間の短縮」等の利用者ニーズをより丁寧にくみ取ったサービスの提供について検討する必要があります。

さらに、視覚障害等の配慮を要する子どもへの対応という観点からと、インターネットなどの電子媒体を利用した情報収集の定着とともに、電子書籍の普及も今後予想されることから、紙媒体と電子媒体の複合的な情報提供と、その利用環境の整備に関する調査・研究が必要です。

図書館司書は図書館資料の選択・収集・提供、利用者に対する読書相談、子どもの読書に対するアドバイスを行い、関係機関と連携を図るなど専門的な役割を担う重要な存在です。そのためにも正職員としての図書館司書の配置と、図書館司書を核とした適正な職員体制が不可欠です。

また、充実した図書館サービスの提供を図るため、適時図書館情報システムを更新し、蔵書点検を実施しながら、豊富で新鮮な蔵書を整備し、将来にわたって持続可能な図書館運営を行う必要があります。

ソフト面とハード面の両面において、長期的・計画的な視点に立った環境整備を進め、魅力ある図書館づくりを進めます。

## 第5章 関係資料

### (資料1) 経過報告

令和2年

- ・ 5月20日 社会教育委員へのヒアリング (6月10日まで)
- ・ 6月1日 上士幌町子どもの読書推進計画策定会議設置要綱施行
- ・ 6月1日 第1回策定会議 (紙面会議) (6月20日まで)
- ・ 6月12日 上士幌小学校読み聞かせボランティアアンケート  
(6月30日まで)
- ・ 6月25日 パブリックコメント (令和2年7月20日まで)
- ・ 8月28日 第2回策定会議
- ・ 10月14日 第3回策定会議 (紙面会議) (11月1日まで)
- ・ 10月23日 社会教育委員へのヒアリング (11月4日まで)
- ・ 11月4日 社会教育委員の会議で報告
- ・ 11月25日 第4回策定会議
- ・ 12月23日 第5回策定会議 (紙面会議) (令和3年1月8日まで)

令和3年

- ・ 1月8日 社会教育委員へのヒアリング (1月29日まで)
- ・ 1月30日 教育委員会へ策定会議より議論の報告書提出
- ・ 2月26日 社会教育委員の会議で報告

## (資料2) 上士幌町子どもの読書推進計画策定会議設置要綱

### (目的及び設置)

第1条 本町において育つ子どもが、言語を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていくため、読書の楽しさ、素晴らしさを普及することを目的に、「上士幌町子どもの読書推進計画(仮称)」(以下、「計画」という。)を策定することとし、その策定内容を検討するため、「上士幌町子どもの読書推進計画策定会議」(以下、「会議」という。)を設置する。

### (任務)

第2条 会議は、前項の目的を達成するため、以下の検討を行う。

- (1) 子どもの読書環境の整備に関すること。
- (2) 家庭における子どもの読書普及に関すること。
- (3) その他、計画の策定に必要な事項に関すること。

### (会議)

第3条 会議は、以下の構成メンバーをもって開催する。

- (1) 社会教育委員の会議委員長
- (2) 認定こども園
- (3) 上士幌小学校
- (4) 上士幌中学校
- (5) お話会カッコウ
- (6) 学童保育所
- (7) 保護者
- (8) 教育推進課学校教育担当
- (9) 読書コーディネーター
- (10) 図書館職員
- (11) その他、必要に応じてオブザーバーを置くことができる。

### (議長)

第4条 会議には議長を置く。

- 2 議長は社会教育委員の会議委員長が務めるものとする。

(報告)

第5条 会議で検討した内容は、教育委員会に報告するものとし、教育委員会はその内容をもとに協議し計画を策定する。

(期間)

第6条 策定会議は、第1回会議の日にその効力が発生するものとし、「子どもの読書推進計画」(仮称)の策定をもってその効力を失うものとする。

(庶務)

第7条 会議の庶務は、教育委員会生涯学習課図書館担当がこれを処理する。

(その他)

第8条 その他、会議に必要な事項は、教育長が別途これを定める。

附則

この要綱は、平成27年 9月 1日より施行する。

附則

この要綱は、令和 2年 6月 1日より施行する。

(資料3) 上士幌町子どもの読書推進計画策定会議 構成員

No.	団体	氏名	備考
1	社会教育委員の会議	佐藤 美加代	要綱により議長
2	認定こども園	笹森 恵未	
3	上士幌小学校	山根 澄子	
4	上士幌中学校	松岡 奈々美	
5	お話会カッコウ	山下 京子	
6	学童保育所	杉井 美樹	
7	保護者	吉田 恵	
8	教育推進課学校教育担当	和賀 愛佳	
9	生涯学習課長	須田 修	事務局
10	生涯学習課主幹	田中 義朗	事務局
11	上士幌町図書館	長良 実穂	事務局
12	上士幌町図書館	水越 正浩	事務局
13	上士幌町図書館	橋本 香奈代	事務局
14	読書コーディネーター	森 典子	事務局

(資料4) アンケート結果および 別紙のとおり

- ・『子どもの読書推進計画』読書アンケート 経年変化比較
- ・上士幌小学校 読み聞かせボランティア アンケート集計
- ・上士幌町第1期子どもの読書推進計画に基づく評価表

『子どもの読書推進計画』  
読書アンケート 経年変化比較

上士幌町教育委員会



読書アンケート実施人数 (2017-2020)

	2年生	5年生	中学2年生	こども園 保護者	小2保護 者	小5保護 者	中2保護 者	合計
合計	133	159	131	244	82	88	87	924

2017年 (平成28年度)

	2年生	5年生	中学2年生
児童 生徒数	33	35	37

児童・生徒	保護者
423	501

	こども園	2年生	5年生	中学2年生
保護者	43	30	8	24

2018年 (平成29年度)

	2年生	5年生	中学2年生
児童 生徒数	27	43	10

	こども園	2年生	5年生	中学2年生
保護者	79	18	34	12

2019年 (平成30年度)

	2年生	5年生	中学2年生
児童 生徒数	31	44	47

	こども園	2年生	5年生	中学2年生
保護者	66	15	26	38

2020年 (令和元年度)

	2年生	5年生	中学2年生
児童 生徒数	42	37	37

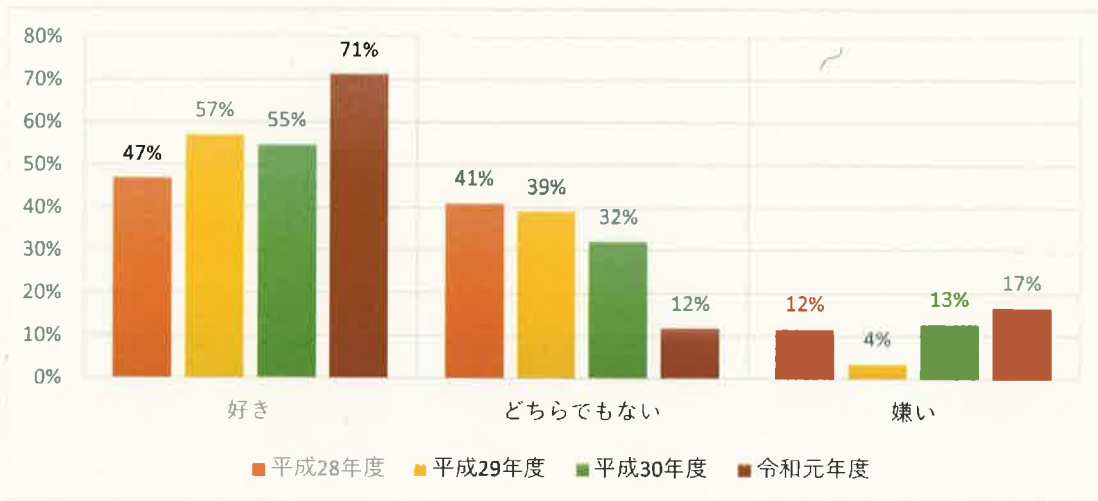
	こども園	2年生	5年生	中学2年生
保護者	56	19	20	13

子どもの読書推進計画 児童・生徒アンケート経年変化(小学2年生)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	合計
人数	33	27	31	42	133

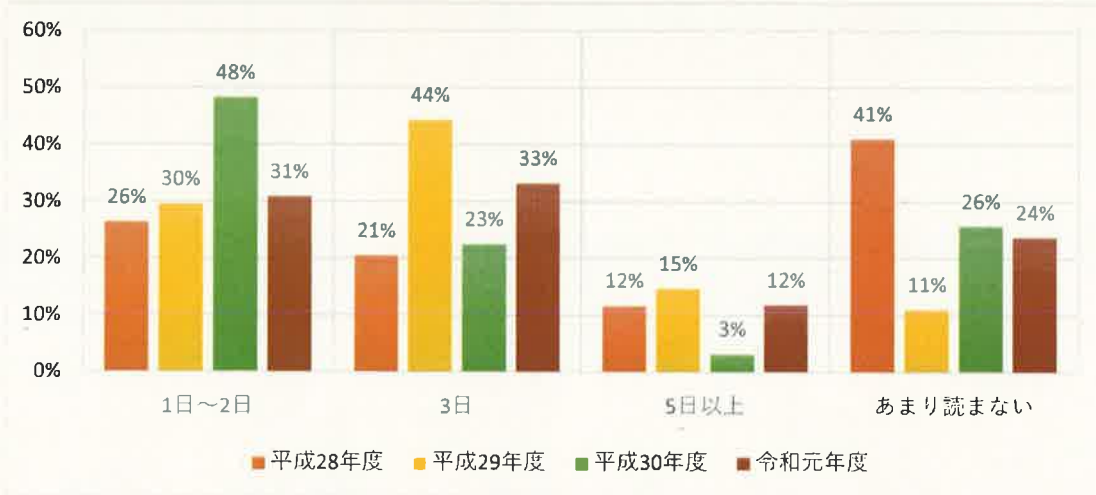
①本を読むのが好きですか？

	好き	どちらでもない	嫌い
平成28年度	47%	41%	12%
平成29年度	57%	39%	4%
平成30年度	55%	32%	13%
令和元年度	71%	12%	17%



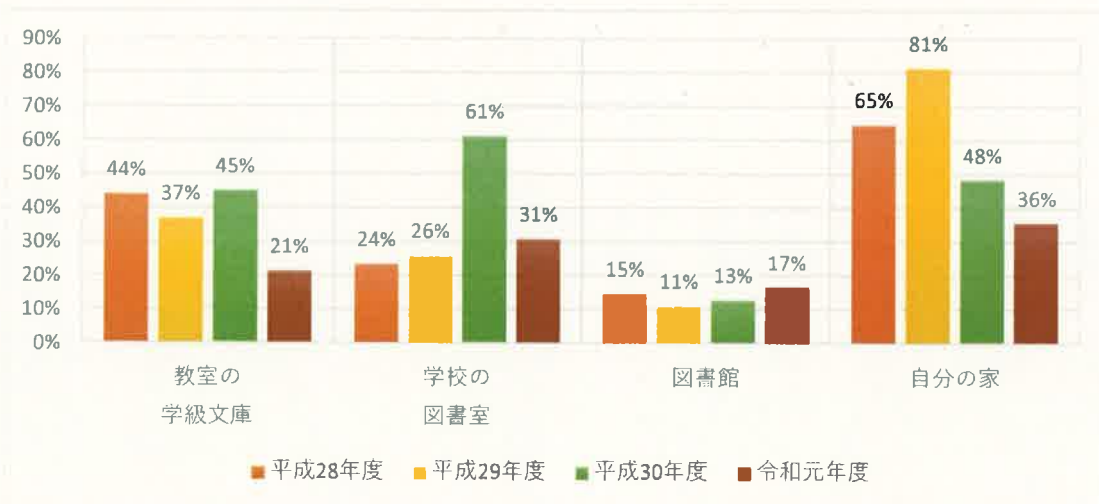
②どれくらい本を読みますか？(1週間)

	1日～2日	3日	5日以上	あまり読まない
平成28年度	26%	21%	12%	41%
平成29年度	30%	44%	15%	11%
平成30年度	48%	23%	3%	26%
令和元年度	31%	33%	12%	24%



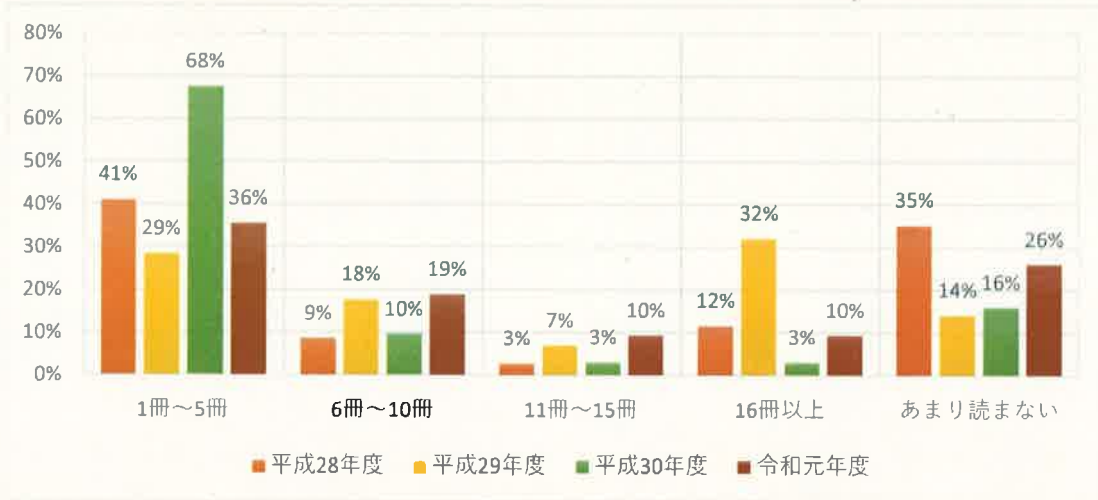
③いつも本をどこで読みますか？(複数回答)

	教室の 学級文庫	学校の 図書室	図書館	自分の家	その他
平成28年度	44%	24%	15%	65%	きょうしつでせんせいとよむ
平成29年度	37%	26%	11%	81%	
平成30年度	45%	61%	13%	48%	学童 (2)
令和元年度	21%	31%	17%	36%	車の中、おばあちゃんの家、実家



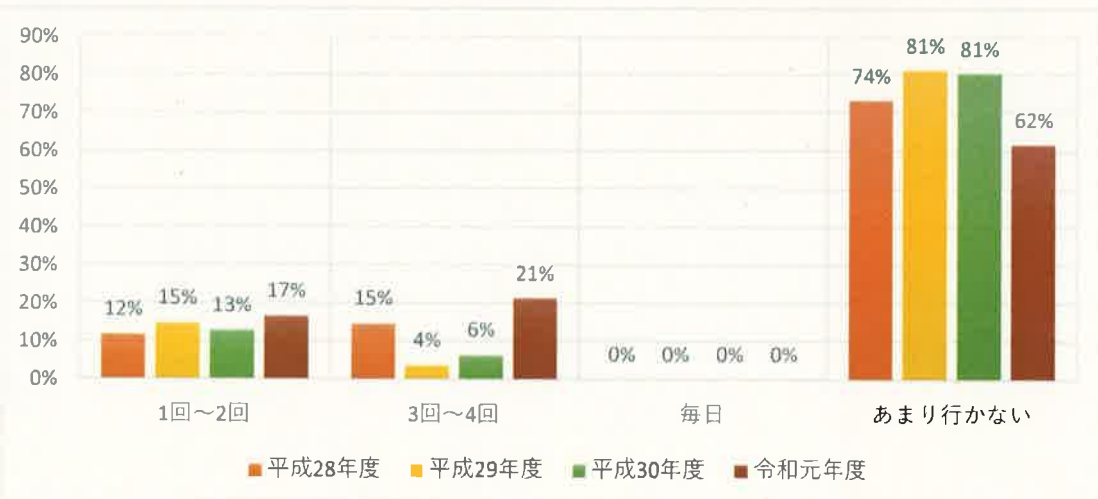
④長期休暇中にどれくらい本を読みますか？

	1冊～5冊	6冊～10冊	11冊～15冊	16冊以上	あまり読まない
平成28年度	41%	9%	3%	12%	35%
平成29年度	29%	18%	7%	32%	14%
平成30年度	68%	10%	3%	3%	16%
令和元年度	36%	19%	10%	10%	26%



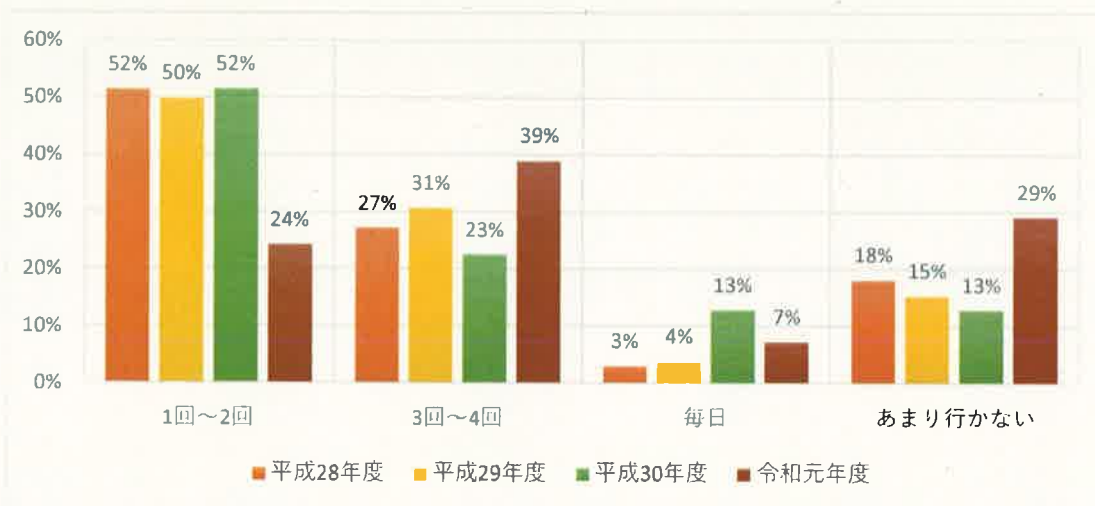
⑤町の図書館にどれくらい行きますか？(1週間)

	1回～2回	3回～4回	毎日	あまり行かない
平成28年度	12%	15%	0%	74%
平成29年度	15%	4%	0%	81%
平成30年度	13%	6%	0%	81%
令和元年度	17%	21%	0%	62%



⑥学校の図書室へはどれくらい行きますか？(1週間)

	1回～2回	3回～4回	毎日	あまり行かない
平成28年度	52%	27%	3%	18%
平成29年度	50%	31%	4%	15%
平成30年度	52%	23%	13%	13%
令和元年度	24%	39%	7%	29%

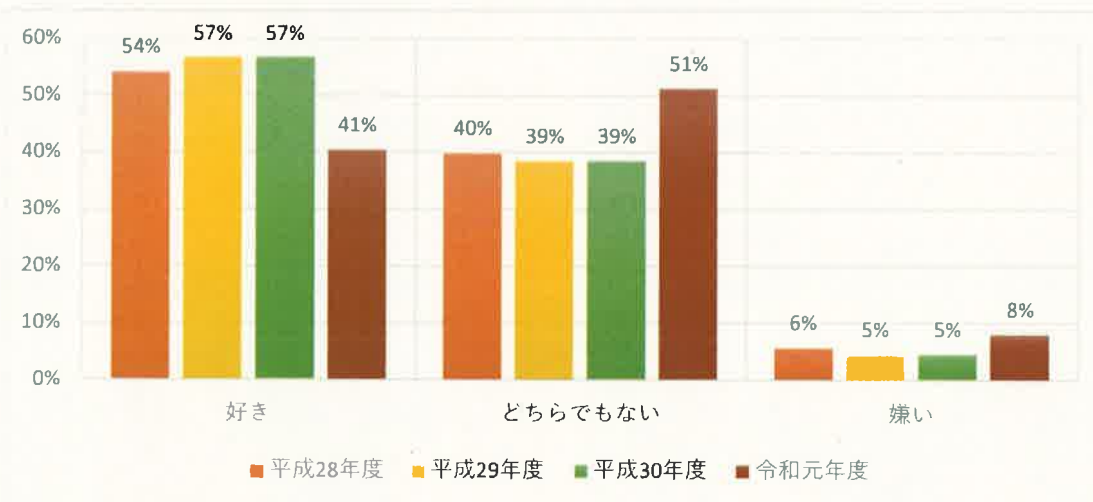


子どもの読書推進計画 児童・生徒アンケート経年変化(小学5年生)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	合計
人数	35	43	44	37	159

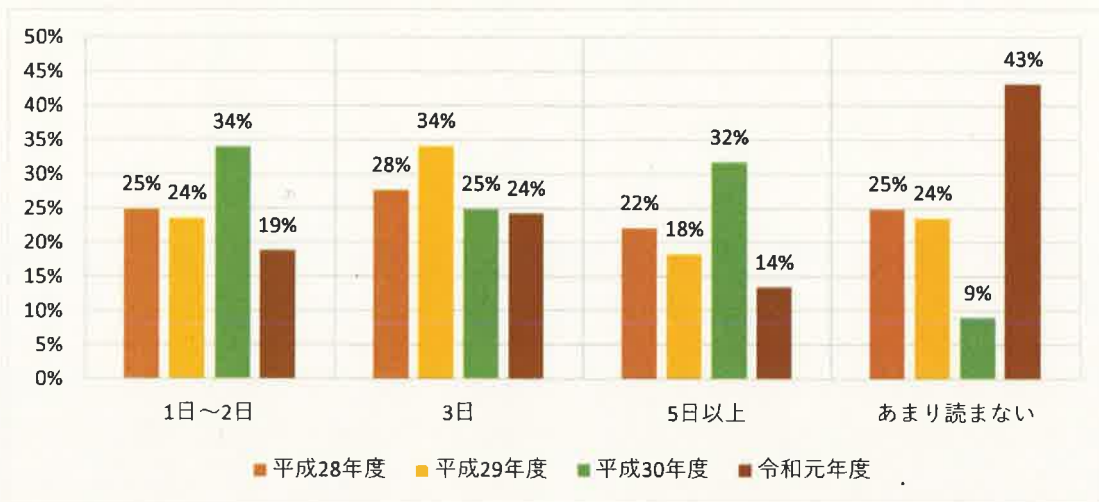
①本を読むのが好きですか？

	好き	どちらでもない	嫌い
平成28年度	54%	40%	6%
平成29年度	57%	39%	5%
平成30年度	57%	39%	5%
令和元年度	41%	51%	8%



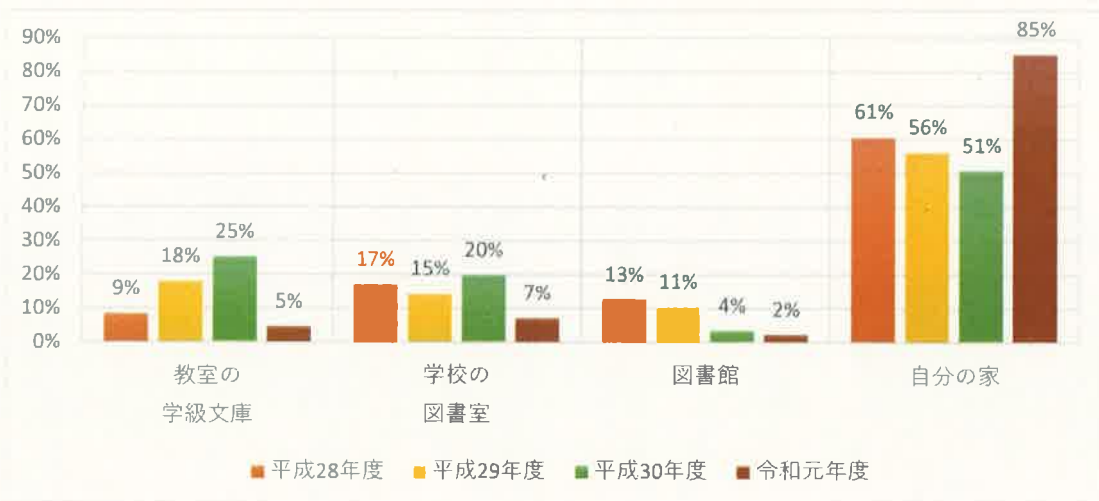
②どれくらい本を読みますか？(1週間)

	1日～2日	3日	5日以上	あまり読まない
平成28年度	25%	28%	22%	25%
平成29年度	24%	34%	18%	24%
平成30年度	34%	25%	32%	9%
令和元年度	19%	24%	14%	43%



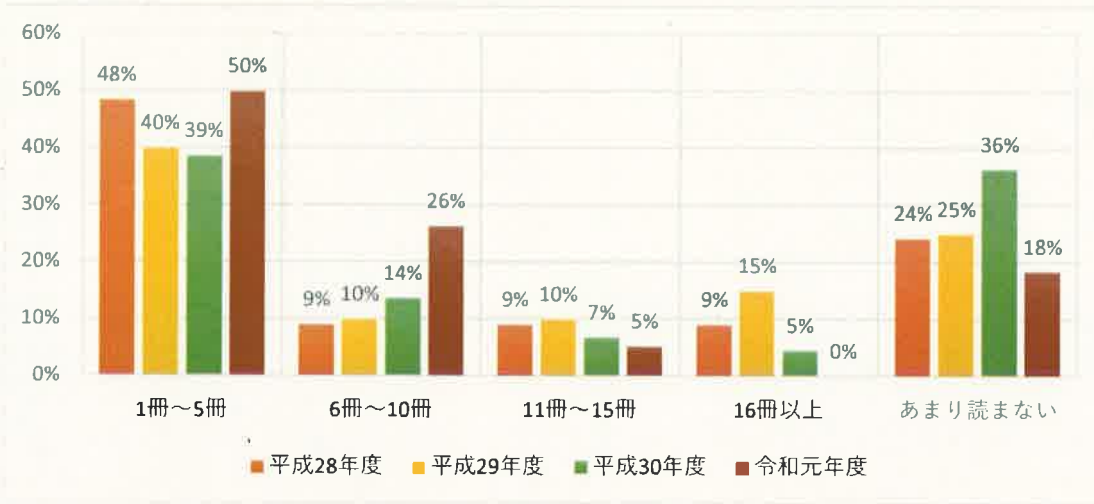
③いつも本をどこで読みますか？(複数回答)

	教室の 学級文庫	学校の 図書室	図書館	自分の家	その他
平成28年度	9%	17%	13%	61%	祖父母の家
平成29年度	18%	15%	11%	56%	
平成30年度	25%	20%	4%	51%	学童
令和元年度	5%	7%	2%	85%	学童



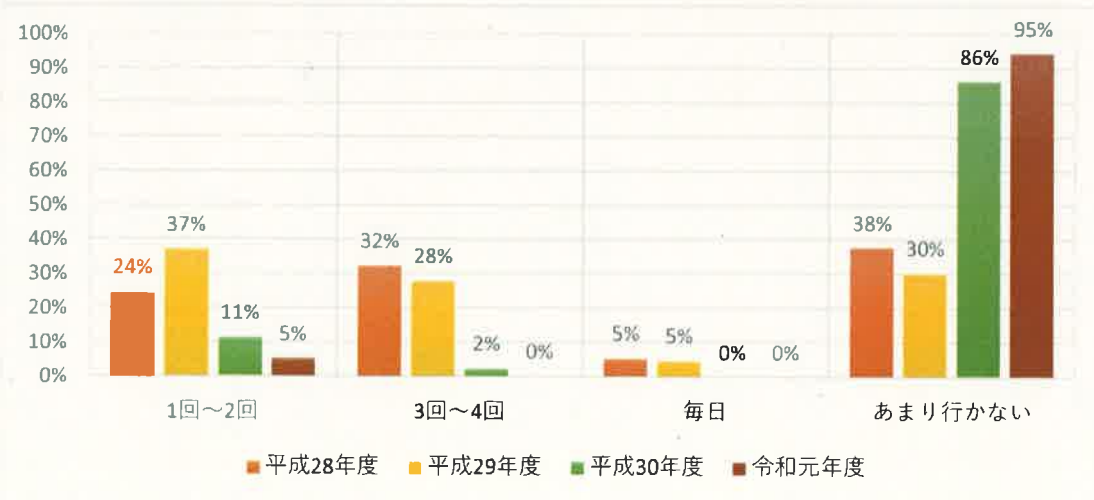
④長期休暇中にどれくらい本を読みますか？

	1冊～5冊	6冊～10冊	11冊～15冊	16冊以上	あまり読まない
平成28年度	48%	9%	9%	9%	24%
平成29年度	40%	10%	10%	15%	25%
平成30年度	39%	14%	7%	5%	36%
令和元年度	50%	26%	5%	0%	18%



⑤町の図書館にどれくらい行きますか？(1週間)

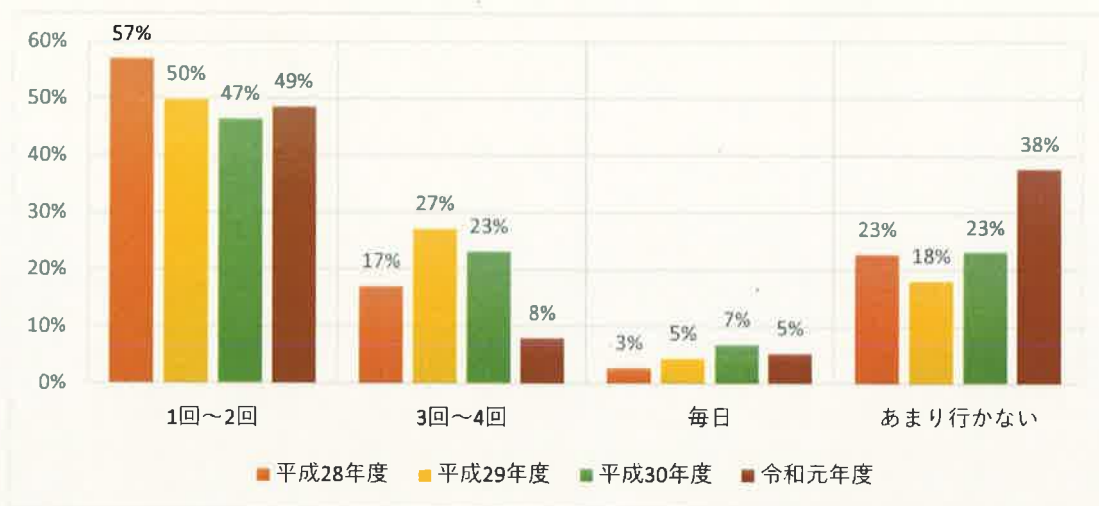
	1回～2回	3回～4回	毎日	あまり行かない
平成28年度	24%	32%	5%	38%
平成29年度	37%	28%	5%	30%
平成30年度	11%	2%	0%	86%
令和元年度	5%	0%	0%	95%





⑥学校の図書室へはどれくらい行きますか？(1週間)

	1回～2回	3回～4回	毎日	あまり行かない
平成28年度	57%	17%	3%	23%
平成29年度	50%	27%	5%	18%
平成30年度	47%	23%	7%	23%
令和元年度	49%	8%	5%	38%

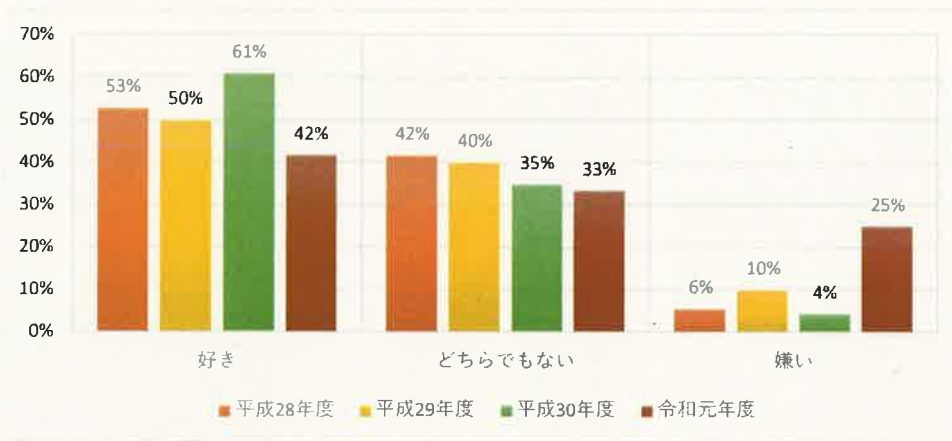


子どもの読書推進計画 児童・生徒アンケート経年変化(中学2年生)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	合計
人数	37	10	47	37	131

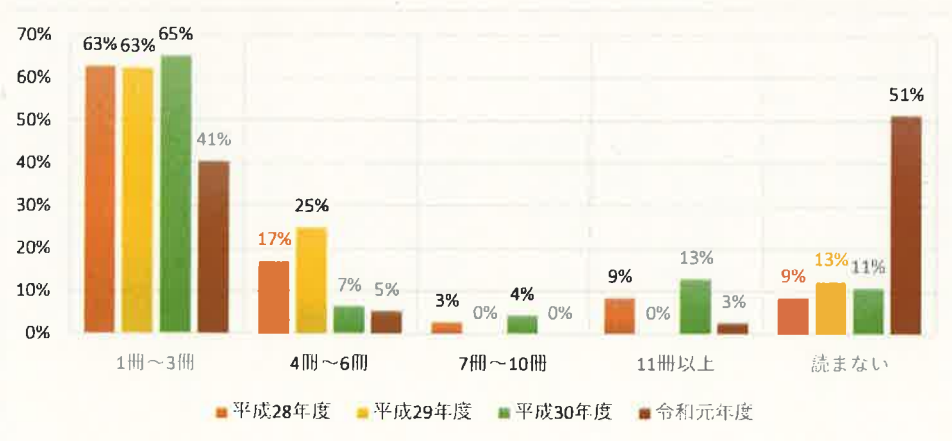
①本を読むのが好きですか？

	好き	どちらでもない	嫌い
平成28年度	53%	42%	6%
平成29年度	50%	40%	10%
平成30年度	61%	35%	4%
令和元年度	42%	33%	25%



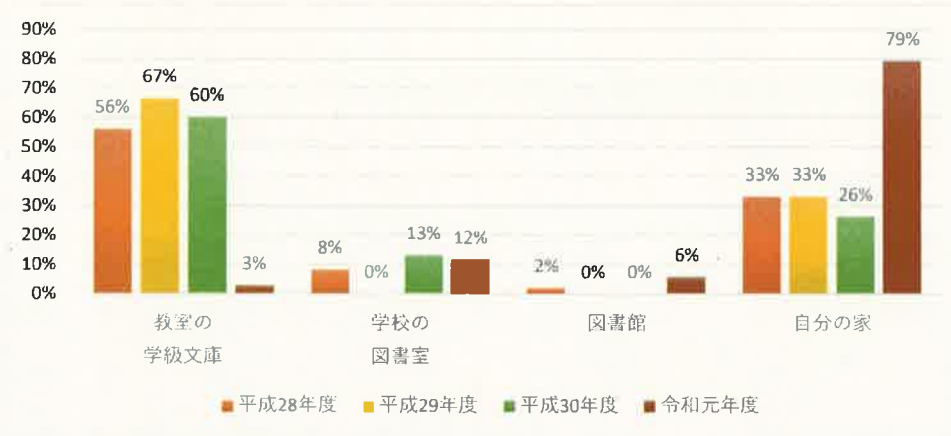
②どれくらい本を読みますか？（1か月）

	1冊～3冊	4冊～6冊	7冊～10冊	11冊以上	読まない
平成28年度	63%	17%	3%	9%	9%
平成29年度	63%	25%	0%	0%	13%
平成30年度	65%	7%	4%	13%	11%
令和元年度	41%	5%	0%	3%	51%



③いつも本をどこで読みますか？（複数回答）

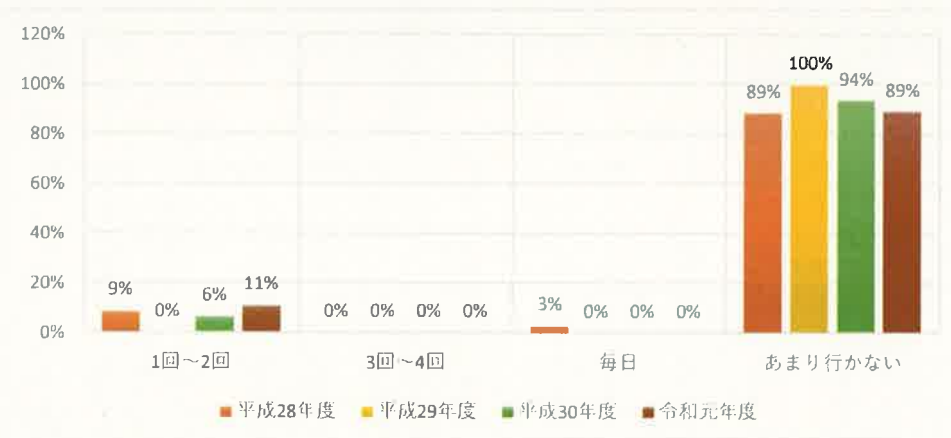
	教室の 学級文庫	学校の 図書室	図書館	自分の家
平成28年度	56%	8%	2%	33%
平成29年度	67%	0%	0%	33%
平成30年度	60%	13%	0%	26%
令和元年度	3%	12%	6%	79%



④長期休暇中にどれくらい本を読みますか？（小学生限定）

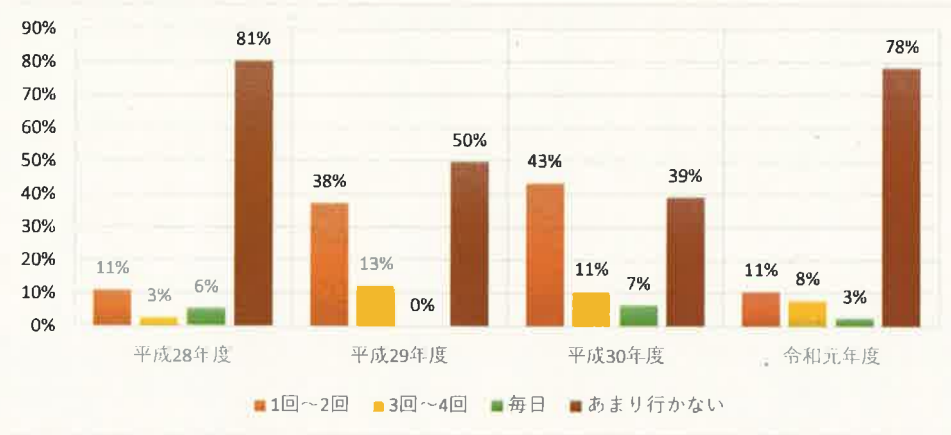
⑤町の図書館にどれくらい行きますか？（1週間）

	1回～2回	3回～4回	毎日	あまり行かない
平成28年度	9%	0%	3%	89%
平成29年度	0%	0%	0%	100%
平成30年度	6%	0%	0%	94%
令和元年度	11%	0%	0%	89%



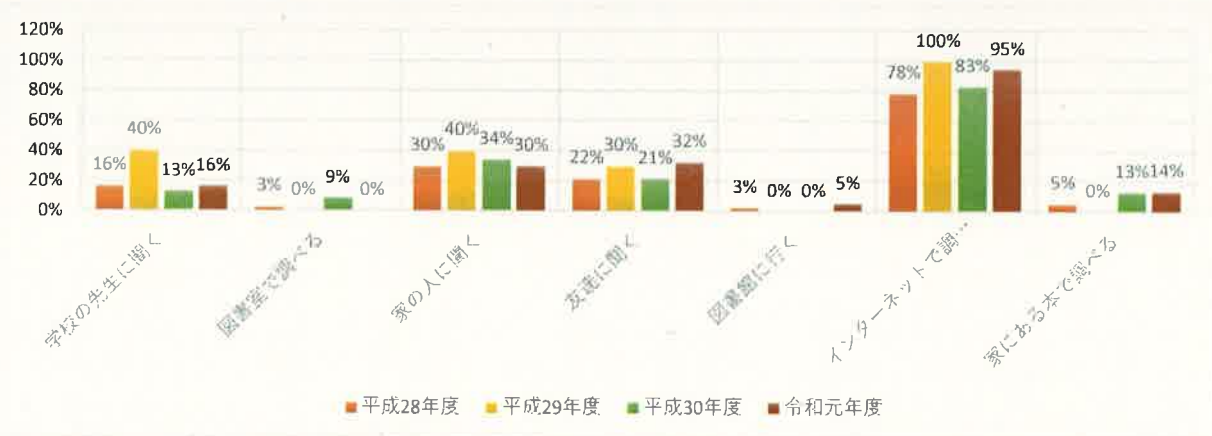
⑥学校の図書室へはどれくらい行きますか？(1週間)

	1回～2回	3回～4回	毎日	あまり行かない
平成28年度	11%	3%	6%	81%
平成29年度	38%	13%	0%	50%
平成30年度	43%	11%	7%	39%
令和元年度	11%	8%	3%	78%



⑦知りたいことがある時、どのようにして調べますか (複数回答可)

	学校の先生に聞く	図書室で調べる	家の人に聞く	友達に聞く	図書館に行く	インターネットで調べる	家にある本で調べる
平成28年度	16%	3%	30%	22%	3%	78%	5%
平成29年度	40%	0%	40%	30%	0%	100%	0%
平成30年度	13%	9%	34%	21%	0%	83%	13%
令和元年度	16%	0%	30%	32%	5%	95%	14%

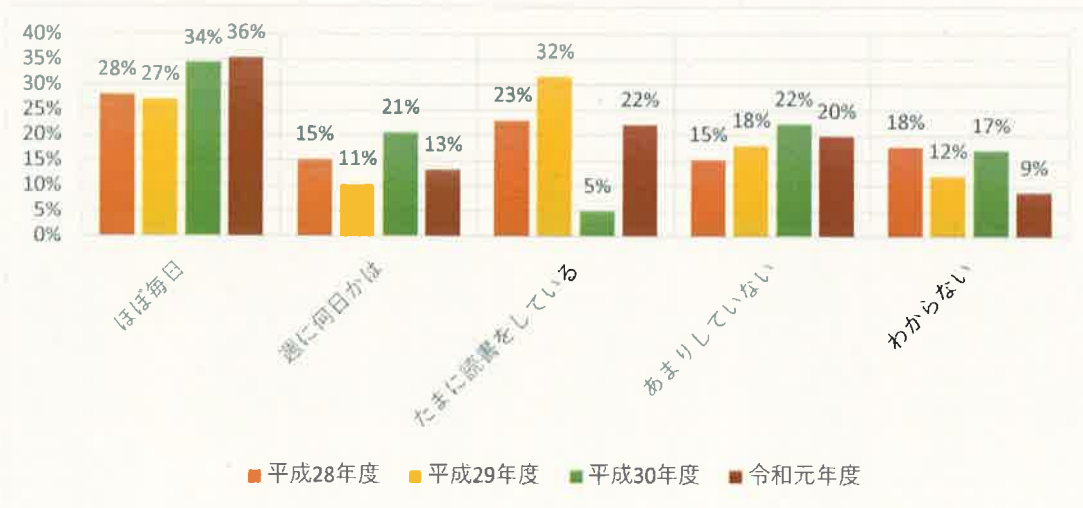


## 子どもの読書推進計画 読書アンケート経年変化(こども園保護者)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	合計
人数	43	79	66	56	244

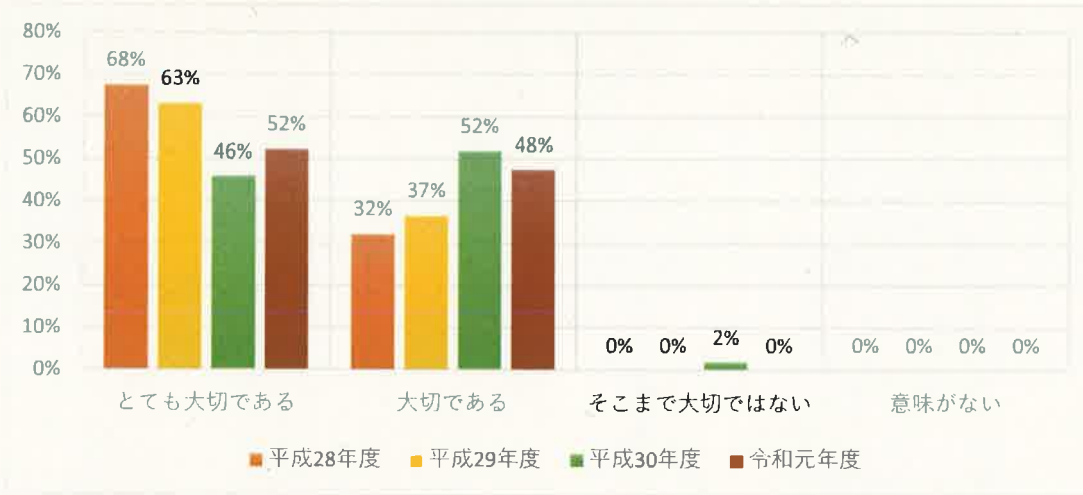
### ①どれくらい絵本などをよんであげていますか

	ほぼ毎日	週に何日かは	たまに読書をしている	あまりしていない	わからない
平成28年度	28%	15%	23%	15%	18%
平成29年度	27%	11%	32%	18%	12%
平成30年度	34%	21%	5%	22%	17%
令和元年度	36%	13%	22%	20%	9%



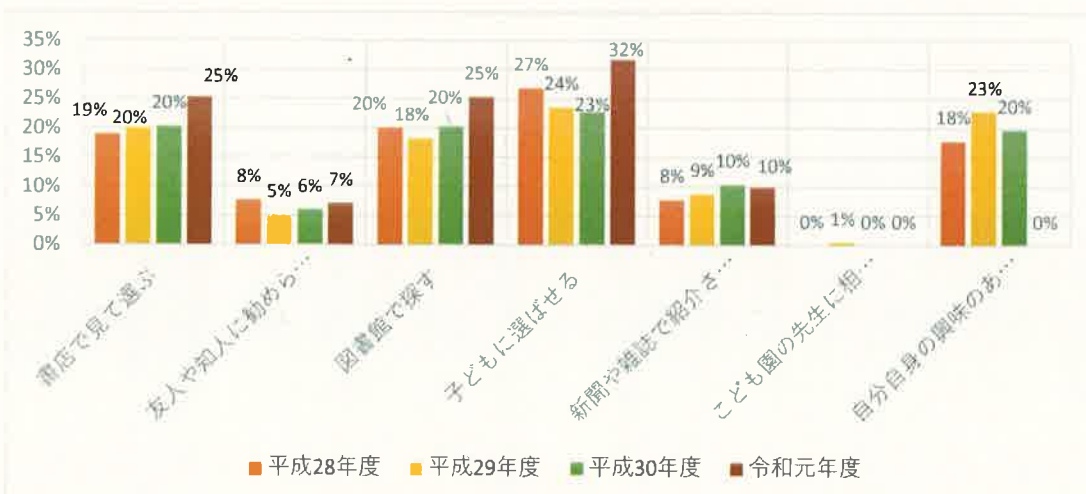
### ②幼少期の絵本などの読み聞かせについて

	とても大切である	大切である	そこまで大切ではない	意味がない
平成28年度	68%	32%	0%	0%
平成29年度	63%	37%	0%	0%
平成30年度	46%	52%	2%	0%
令和元年度	52%	48%	0%	0%



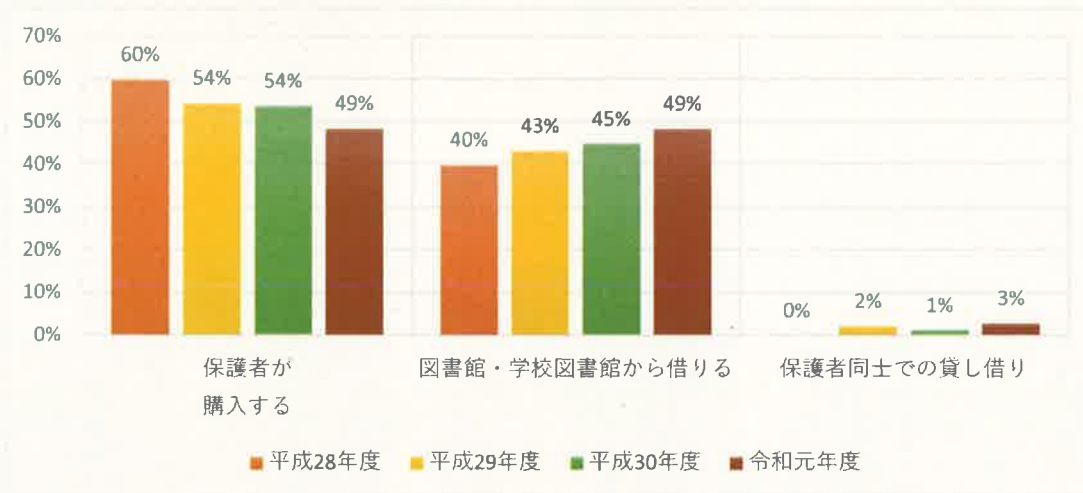
### ③本の選び方について

	書店で見て選ぶ	友人や知人に勧められて	図書館で探す	子どもに選ばせる	新聞や雑誌で紹介されているもの	こども園の先生に相談する	自分自身の興味のあるもの
平成28年度	19%	8%	20%	27%	8%	0%	18%
平成29年度	20%	5%	18%	24%	9%	1%	23%
平成30年度	20%	6%	20%	23%	10%	0%	20%
令和元年度	25%	7%	25%	32%	10%	0%	0%



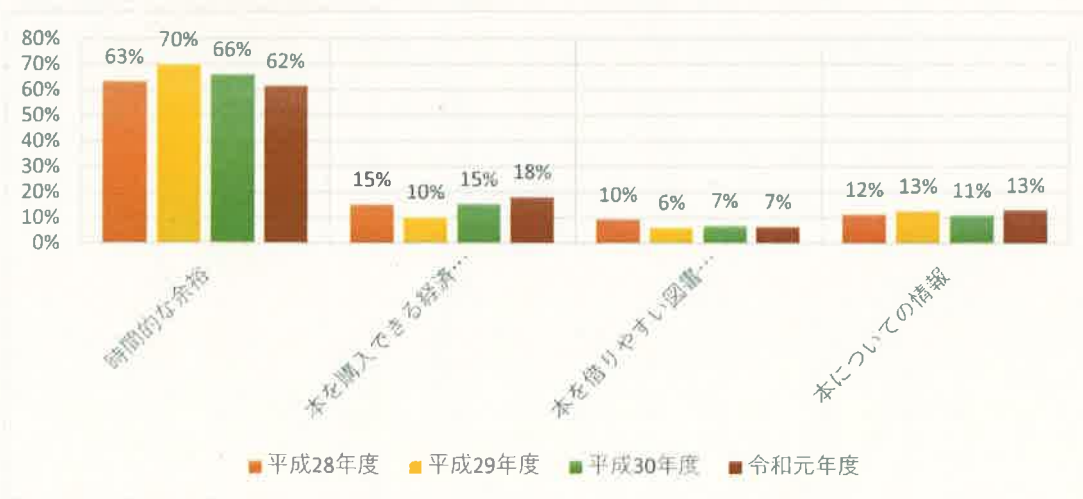
#### ④子どもが読みたい本、保護者が必要と考える本の揃え方

	保護者が購入する	図書館・学校図書館から借りる	保護者同士での貸し借り
平成28年度	60%	40%	0%
平成29年度	54%	43%	2%
平成30年度	54%	45%	1%
令和元年度	49%	49%	3%



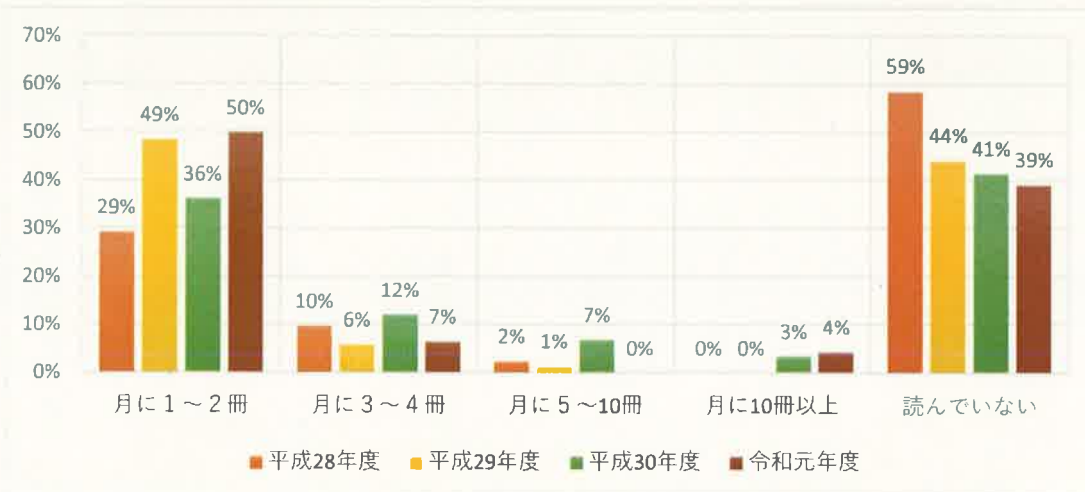
#### ⑤読み聞かせや本と触れ合うために必要なこと

	時間的な余裕	本を購入できる経済的余裕	本を借りやすい図書館の環境	本についての情報
平成28年度	63%	15%	10%	12%
平成29年度	70%	10%	6%	13%
平成30年度	66%	15%	7%	11%
令和元年度	62%	18%	7%	13%



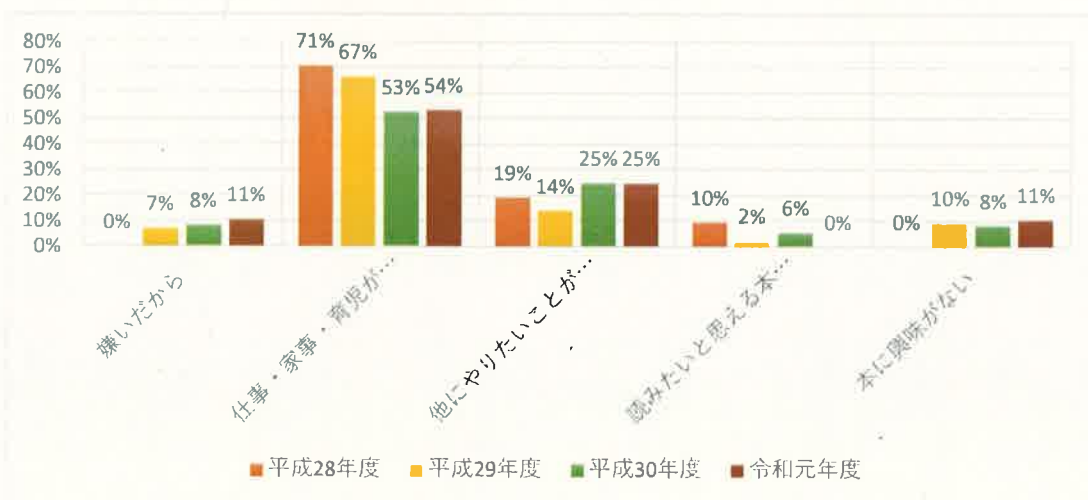
⑥どのくらい本を読みますか(1か月)

	月に1～2冊	月に3～4冊	月に5～10冊	月に10冊以上	読んでいない
平成28年度	29%	10%	2%	0%	59%
平成29年度	49%	6%	1%	0%	44%
平成30年度	36%	12%	7%	3%	41%
令和元年度	50%	7%	0%	4%	39%



⑦読んでいない理由

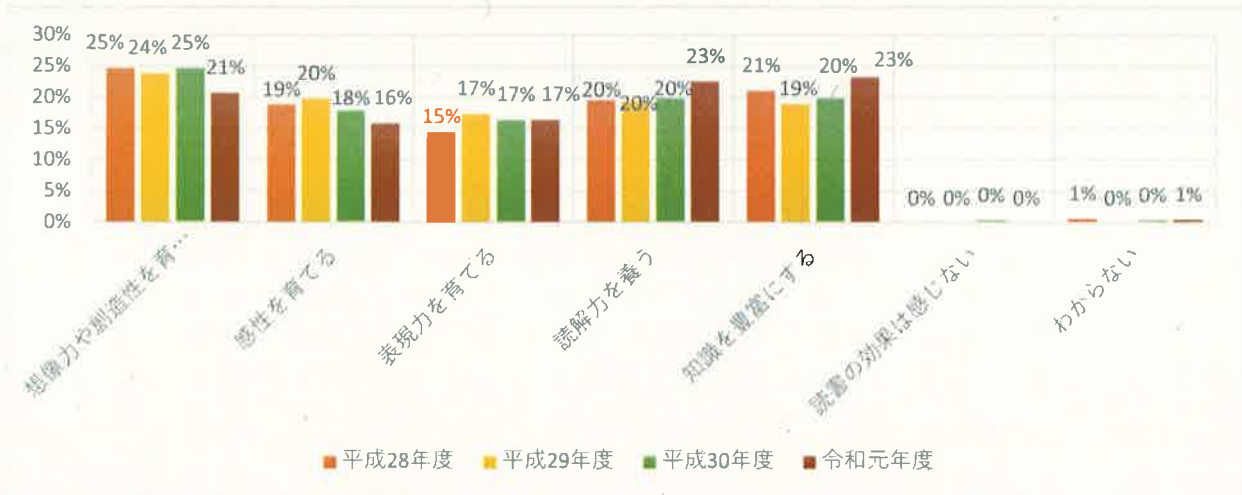
	嫌いだから	仕事・家事・育児が忙しい	他にやりたいことがある	読みたいと思える本が手に入らない	本に興味がない
平成28年度	0%	71%	19%	10%	0%
平成29年度	7%	67%	14%	2%	10%
平成30年度	8%	53%	25%	6%	8%
令和元年度	11%	54%	25%	0%	11%





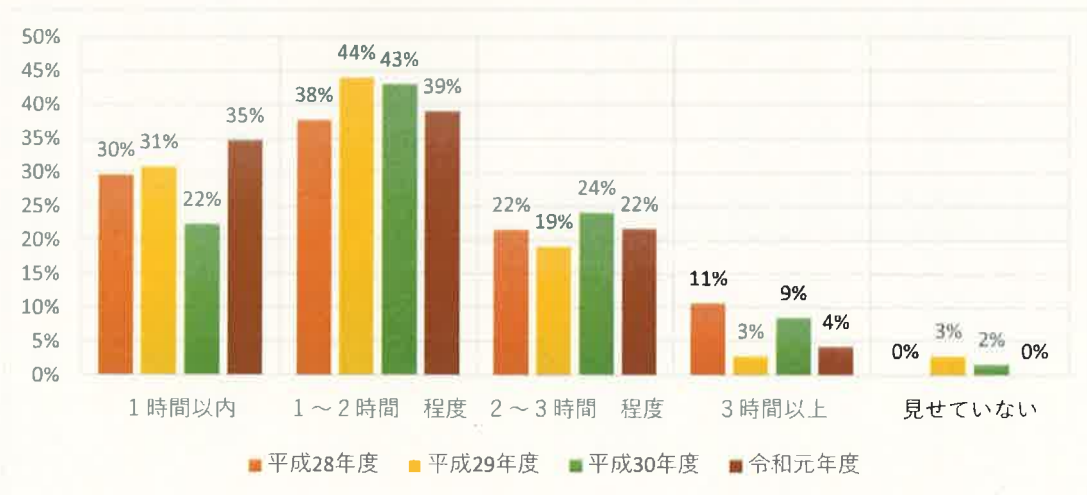
⑧読書が子どもの成長にどんな影響を与えるか

	想像力や創造性を育てる	感性を育てる	表現力を育てる	読解力を養う	知識を豊富にする	読書の効果は感じない	わからない
平成28年度	25%	19%	15%	20%	21%	0%	1%
平成29年度	24%	20%	17%	20%	19%	0%	0%
平成30年度	25%	18%	17%	20%	20%	0%	0%
令和元年度	21%	16%	17%	23%	23%	0%	1%



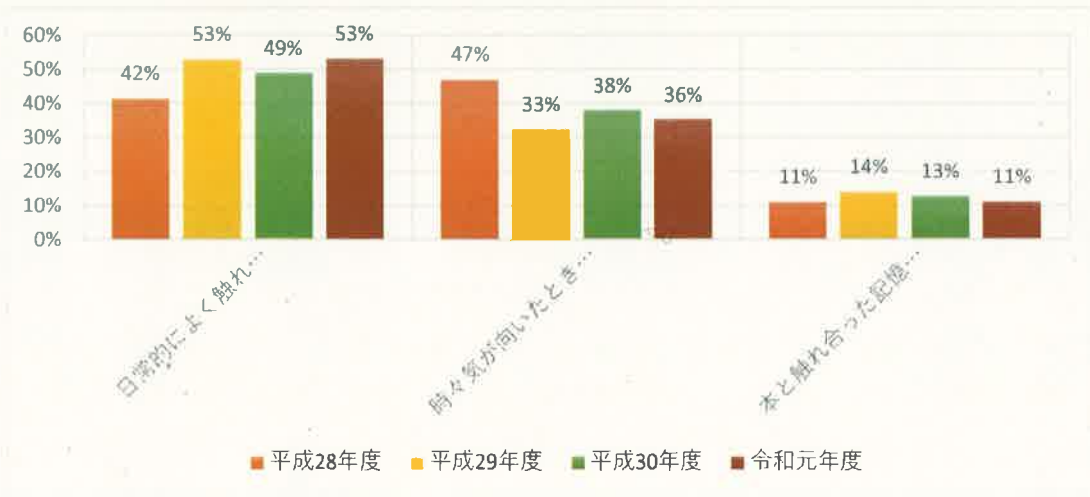
⑨DVDやテレビを見ている時間(1日)

	1時間以内	1～2時間程度	2～3時間程度	3時間以上	見せていない
平成28年度	30%	38%	22%	11%	0%
平成29年度	31%	44%	19%	3%	3%
平成30年度	22%	43%	24%	9%	2%
令和元年度	35%	39%	22%	4%	0%



⑩子どもの頃、本にふれあった経験

	日常によく 触れ合っていた	時々気が向いたときに触れ合う程度	本と触れ合った記憶はあまりない
平成28年度	42%	47%	11%
平成29年度	53%	33%	14%
平成30年度	49%	38%	13%
令和元年度	53%	36%	11%

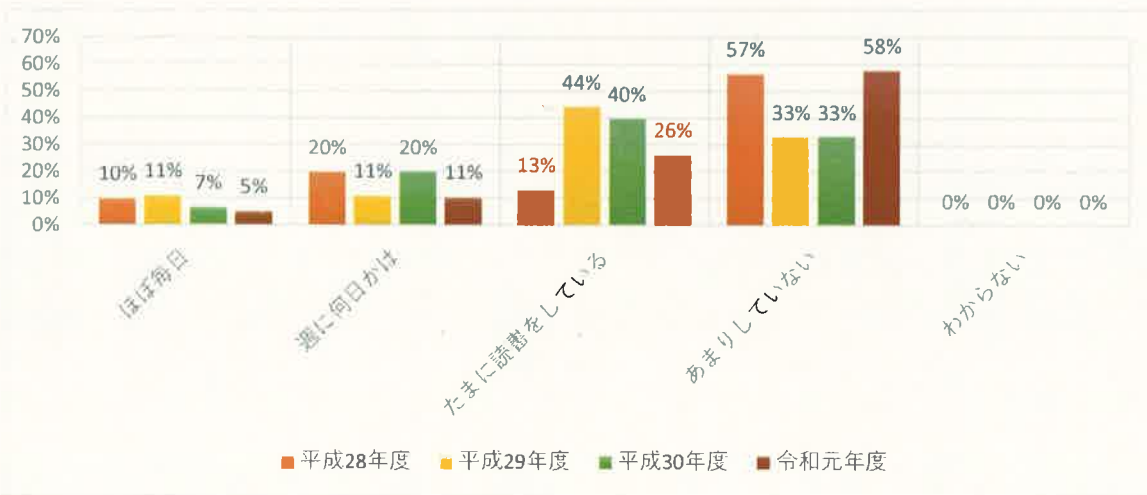


## 子どもの読書推進計画 読書アンケート経年変化(小2保護者)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	合計
人数	30	18	15	19	82

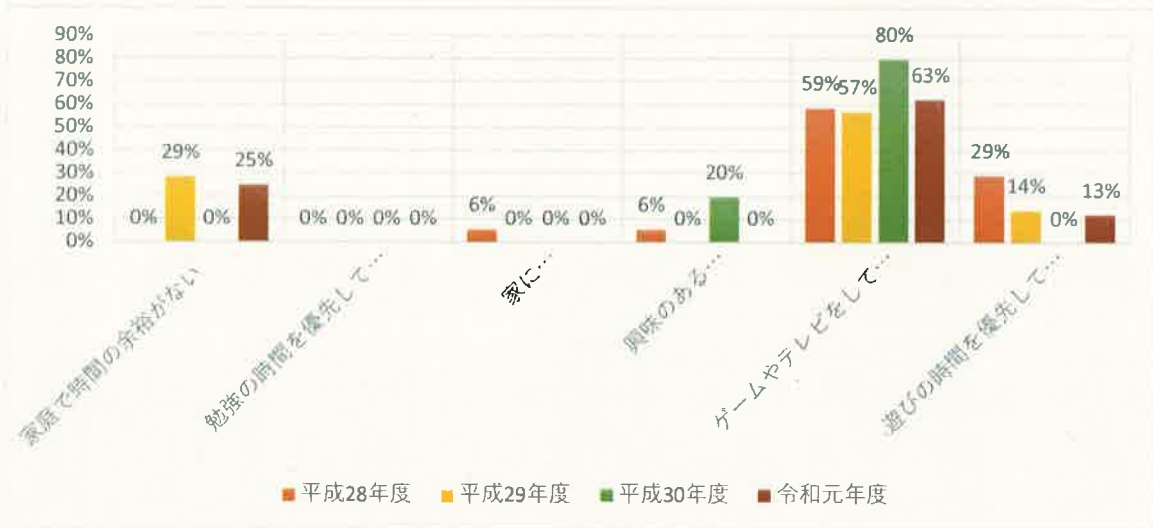
### ①自主的な読書について(1週間)

	ほぼ毎日	週に何日かは	たまに読書をしている	あまりしていない	わからない
平成28年度	10%	20%	13%	57%	0%
平成29年度	11%	11%	44%	33%	0%
平成30年度	7%	20%	40%	33%	0%
令和元年度	5%	11%	26%	58%	0%



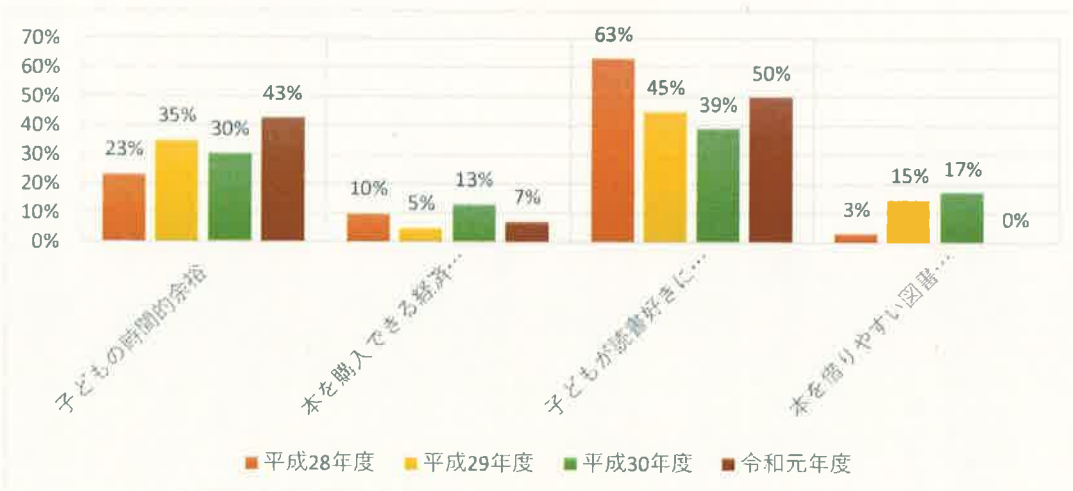
② ①に関して、読書していない人に質問

	家で時間の余裕がない	勉強の時間を優先している	家に本がないから	興味のある本を知らない	ゲームやテレビをしている	遊びの時間を優先している
平成28年度	0%	0%	6%	6%	59%	29%
平成29年度	29%	0%	0%	0%	57%	14%
平成30年度	0%	0%	0%	20%	80%	0%
令和元年度	25%	0%	0%	0%	63%	13%



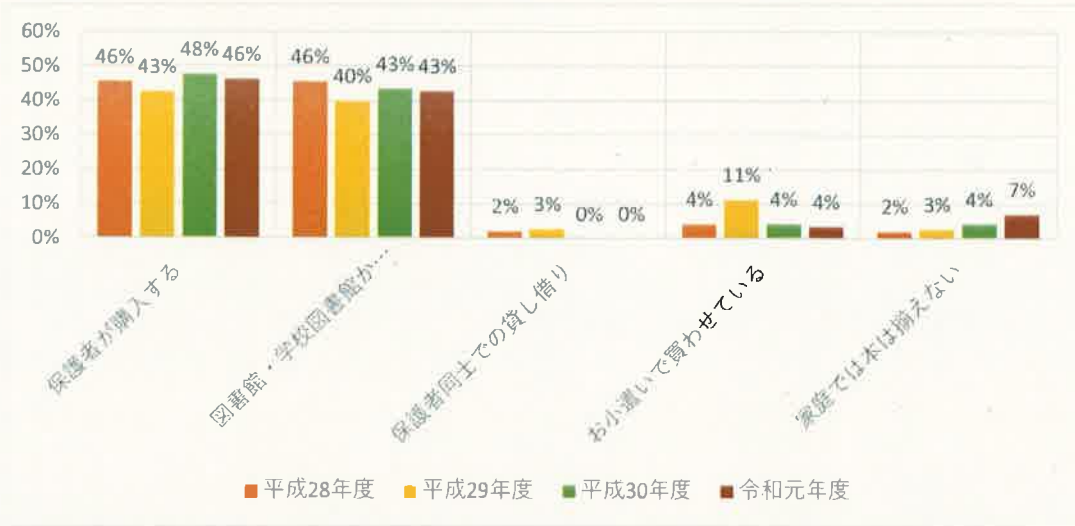
③ 子どもが本に親しむために必要なこと

	子どもの時間的余裕	本を購入できる経済的余裕	子どもが読書好きになること	本を借りやすい図書館・学校図書館
平成28年度	23%	10%	63%	3%
平成29年度	35%	5%	45%	15%
平成30年度	30%	13%	39%	17%
令和元年度	43%	7%	50%	0%



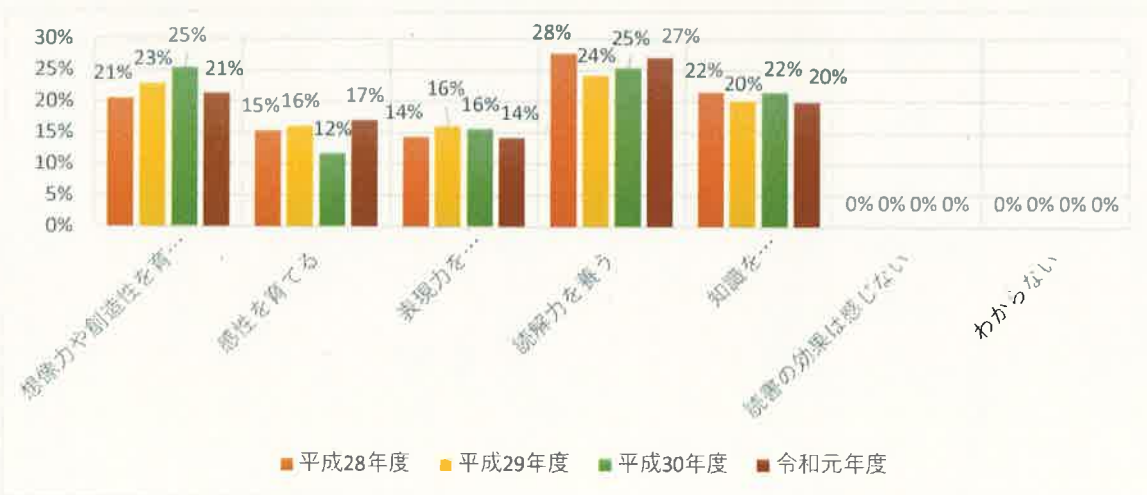
④子どもが読みたい本、保護者が必要と考える本の揃え方

	保護者が購入する	図書館・学校図書館から借りる	保護者同士での貸し借り	お小遣いで買わせている	家庭では本は揃えない
平成28年度	46%	46%	2%	4%	2%
平成29年度	43%	40%	3%	11%	3%
平成30年度	48%	43%	0%	4%	4%
令和元年度	46%	43%	0%	4%	7%



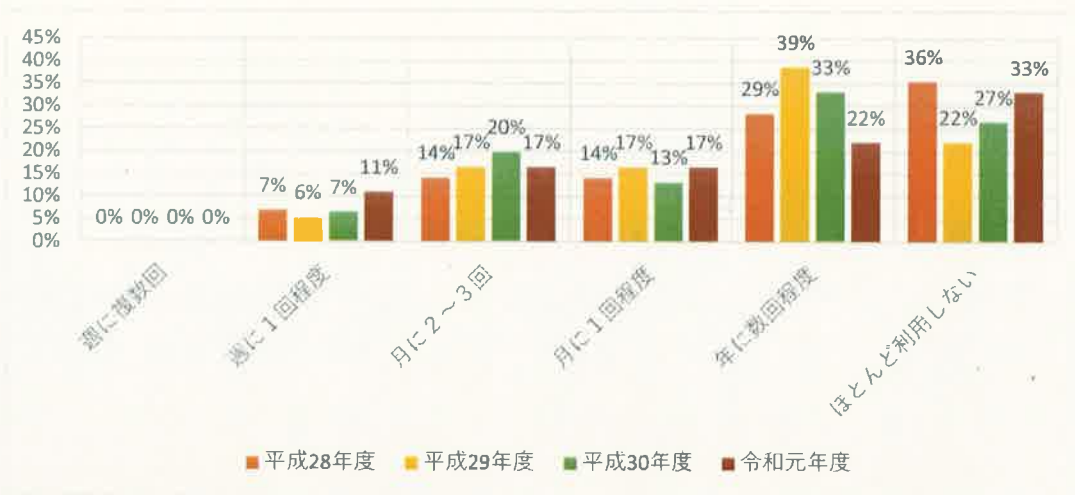
⑤読書が子どもの成長にどんな影響を与えるか

	想像力や創造性を育てる	感性を育てる	表現力を育てる	読解力を養う	知識を豊富にする	読書の効果は感じない	わからない
平成28年度	21%	15%	14%	28%	22%	0%	0%
平成29年度	23%	16%	16%	24%	20%	0%	0%
平成30年度	25%	12%	16%	25%	22%	0%	0%
令和元年度	21%	17%	14%	27%	20%	0%	0%



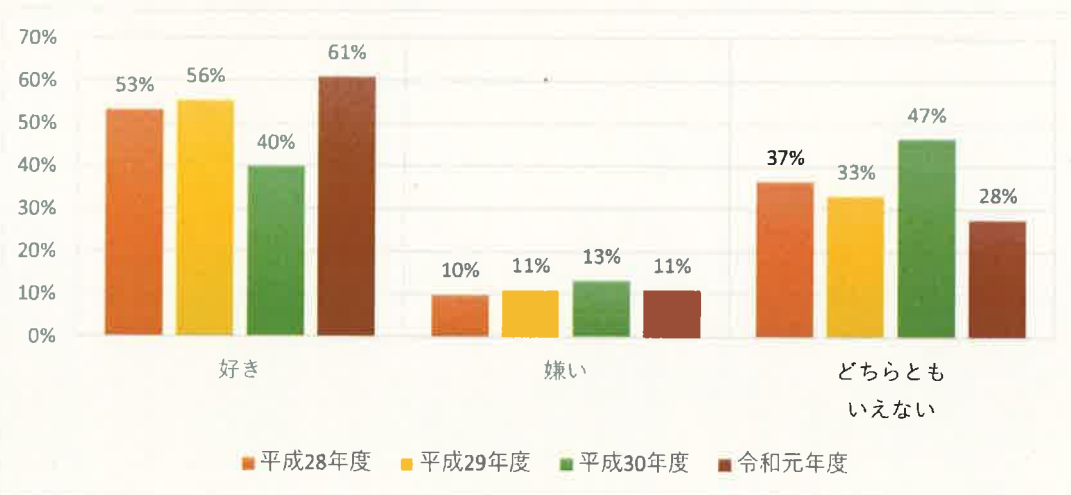
### ⑥図書館の利用頻度

	週に複数回	週に1回程度	月に2～3回	月に1回程度	年に数回程度	ほとんど利用しない
平成28年度	0%	7%	14%	14%	29%	36%
平成29年度	0%	6%	17%	17%	39%	22%
平成30年度	0%	7%	20%	13%	33%	27%
令和元年度	0%	11%	17%	17%	22%	33%



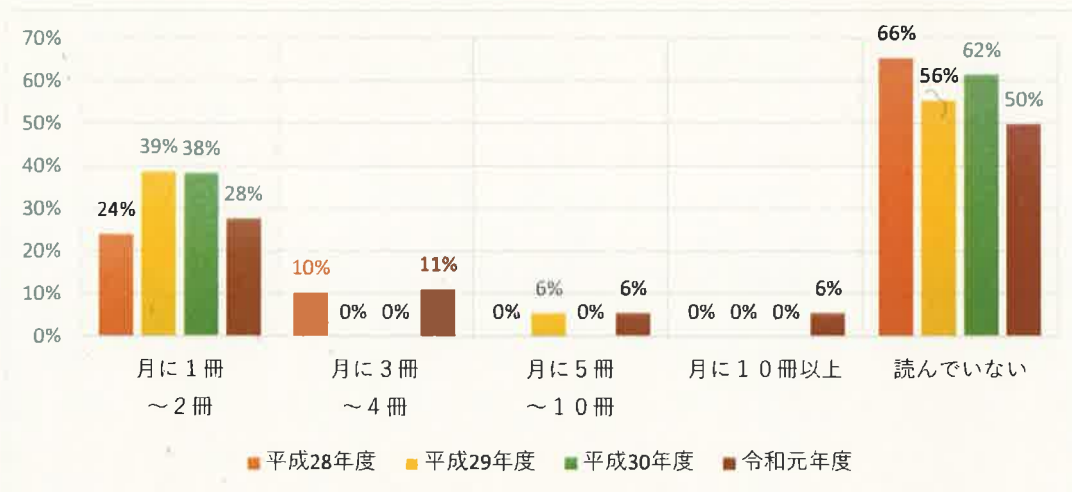
### ⑦本を読むことが好きか (保護者自身)

	好き	嫌い	どちらとも いえない
平成28年度	53%	10%	37%
平成29年度	56%	11%	33%
平成30年度	40%	13%	47%
令和元年度	61%	11%	28%



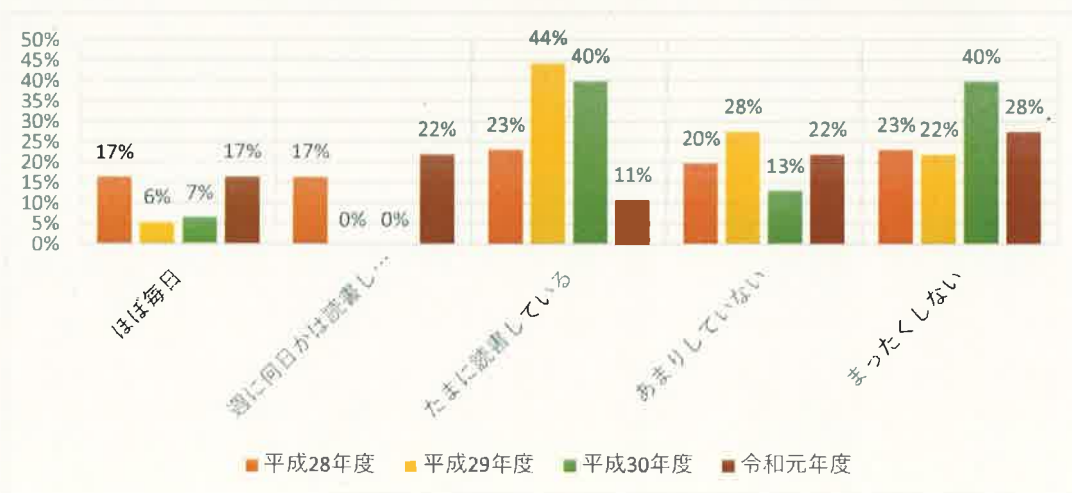
⑧どのくらい本を読むか(1か月)

	月に1冊 ～2冊	月に3冊 ～4冊	月に5冊 ～10冊	月に10冊以上	読んでいない
平成28年度	24%	10%	0%	0%	66%
平成29年度	39%	0%	6%	0%	56%
平成30年度	38%	0%	0%	0%	62%
令和元年度	28%	11%	6%	6%	50%



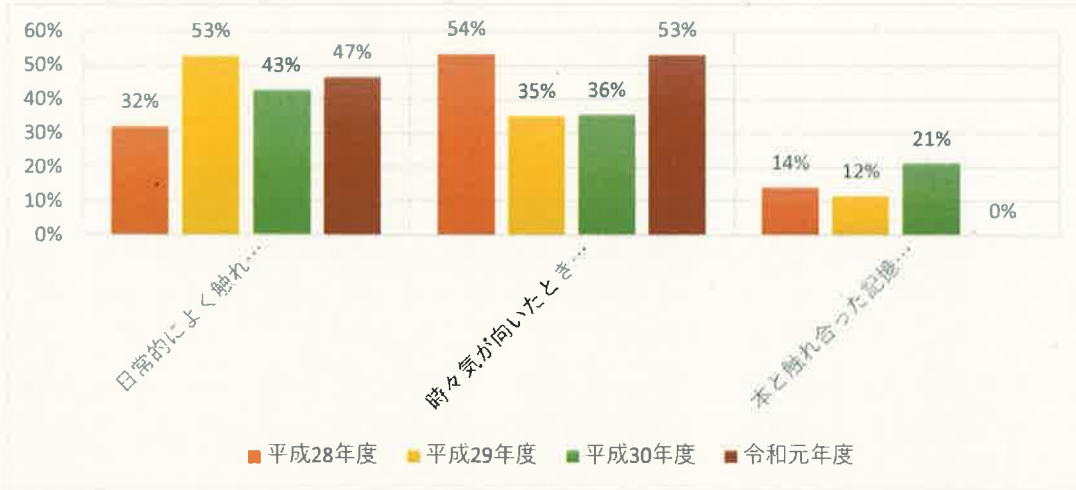
⑨普段どれくらい読書していますか

	ほぼ毎日	週に何日かは 読書している	たまに読書し ている	あまりしてい ない	まったくし ない
平成28年度	17%	17%	23%	20%	23%
平成29年度	6%	0%	44%	28%	22%
平成30年度	7%	0%	40%	13%	40%
令和元年度	17%	22%	11%	22%	28%



⑩子どもの頃、本にふれあった経験

	日常的によく触れ合っていた	時々気が向いたときに触れ合う程度だった	本と触れ合った記憶はあまりない
平成28年度	32%	54%	14%
平成29年度	53%	35%	12%
平成30年度	43%	36%	21%
令和元年度	47%	53%	0%



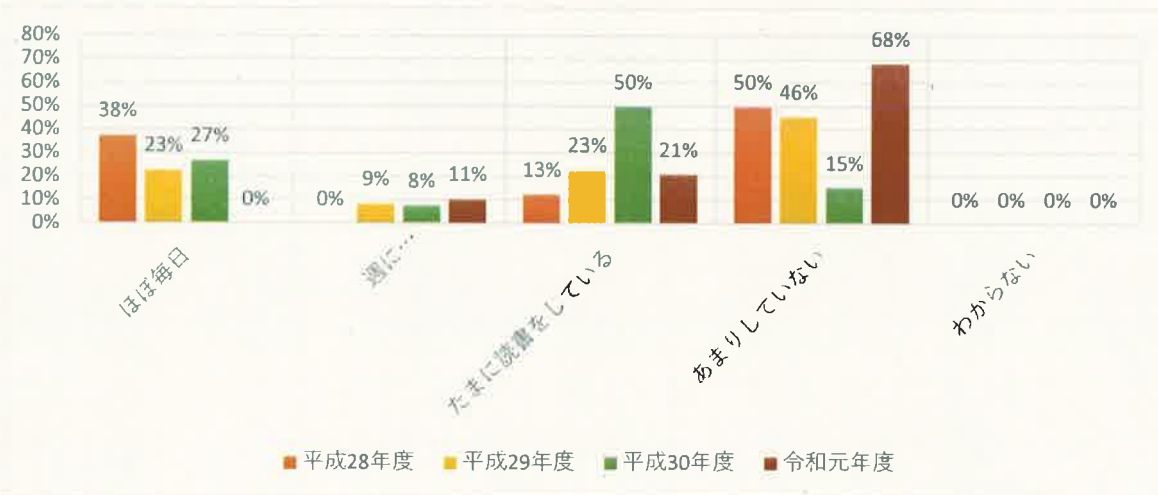


子どもの読書推進計画 読書アンケート経年変化(小5保護者)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	合計
人数	8	34	26	20	88

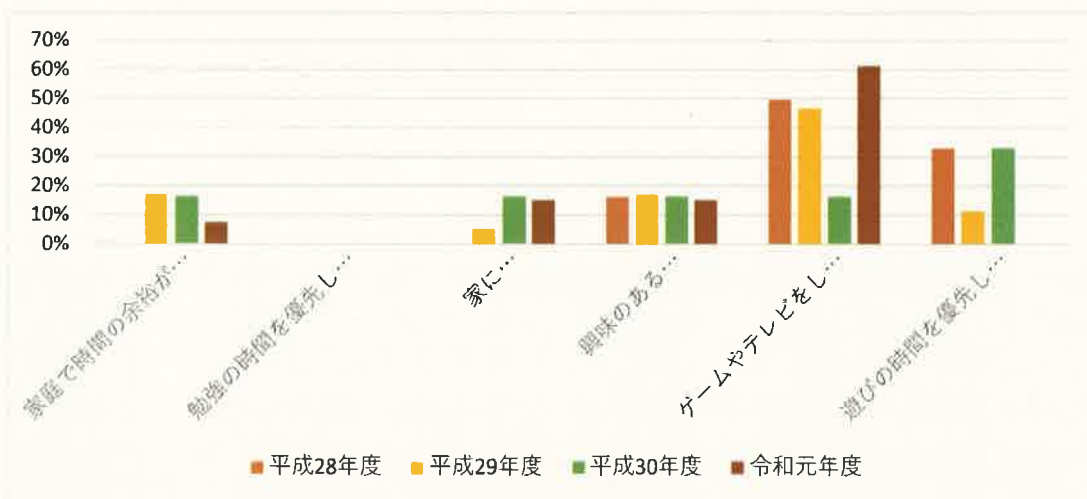
①自主的な読書について(1週間)

	ほぼ毎日	週に 何日かは	たまに読書を している	あまりしてい ない	わからない
平成28年度	38%	0%	13%	50%	0%
平成29年度	23%	9%	23%	46%	0%
平成30年度	27%	8%	50%	15%	0%
令和元年度	0%	11%	21%	68%	0%



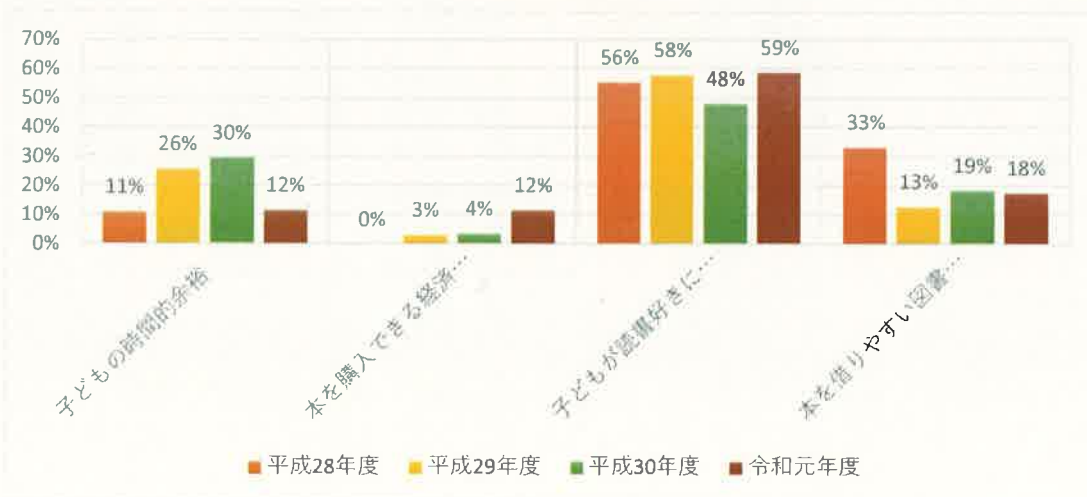
② ①に関して、読書していない人に質問

	家庭で時間の余裕がない	勉強の時間を優先している	家に本がないから	興味のある本を知らない	ゲームやテレビをしている	遊びの時間を優先している
平成28年度	0%	0%	0%	17%	50%	33%
平成29年度	18%	0%	6%	18%	47%	12%
平成30年度	17%	0%	17%	17%	17%	33%
令和元年度	8%	0%	15%	15%	62%	0%



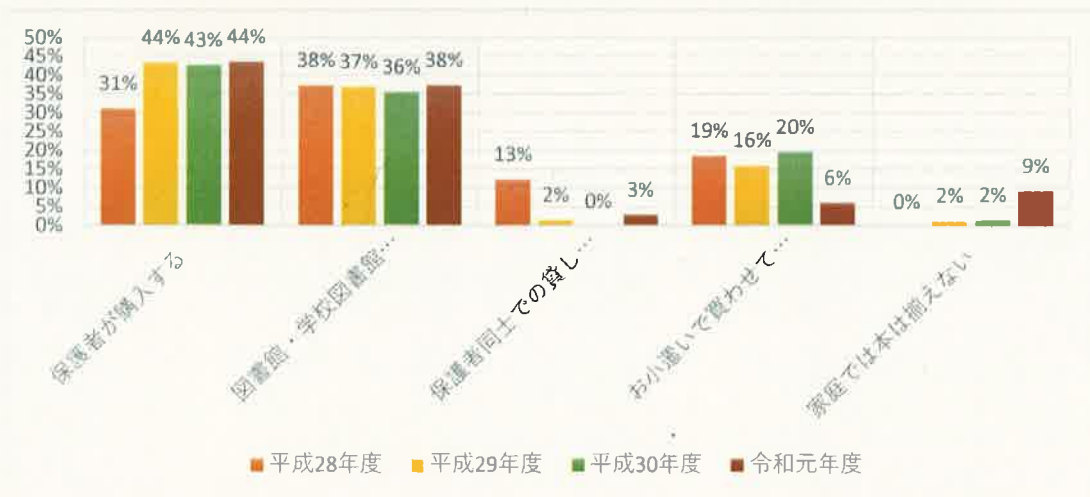
③子どもが本に親しむために必要なこと

	子どもの時間的余裕	本を購入できる経済的余裕	子どもが読書好きになること	本を借りやすい図書館・学校図書館
平成28年度	11%	0%	56%	33%
平成29年度	26%	3%	58%	13%
平成30年度	30%	4%	48%	19%
令和元年度	12%	12%	59%	18%



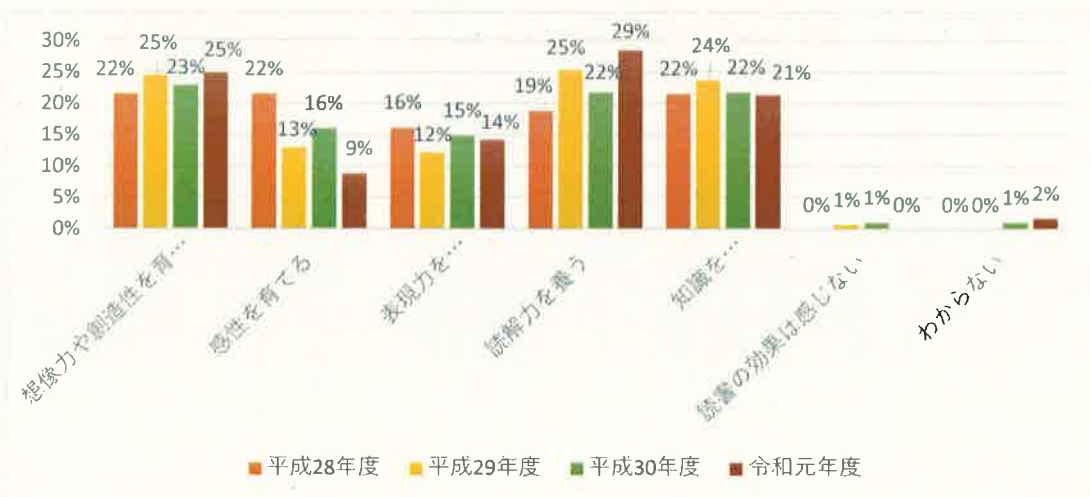
#### ④子どもが読みたい本、保護者が必要と考える本の揃え方

	保護者が購入する	図書館・学校図書館から借りる	保護者同士での貸し借り	お小遣いで買わせている	家庭では本は揃えない
平成28年度	31%	38%	13%	19%	0%
平成29年度	44%	37%	2%	16%	2%
平成30年度	43%	36%	0%	20%	2%
令和元年度	44%	38%	3%	6%	9%



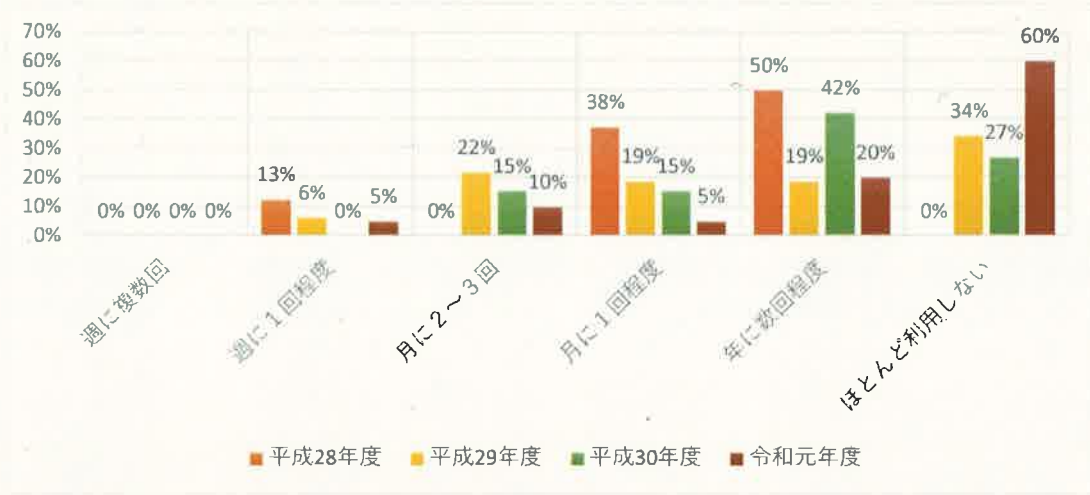
#### ⑤読書が子どもの成長にどんな影響を与えるか

	想像力や創造性を育てる	感性を育てる	表現力を育てる	読解力を養う	知識を豊富にする	読書の効果は感じない	わからない
平成28年度	22%	22%	16%	19%	22%	0%	0%
平成29年度	25%	13%	12%	25%	24%	1%	0%
平成30年度	23%	16%	15%	22%	22%	1%	1%
令和元年度	25%	9%	14%	29%	21%	0%	2%



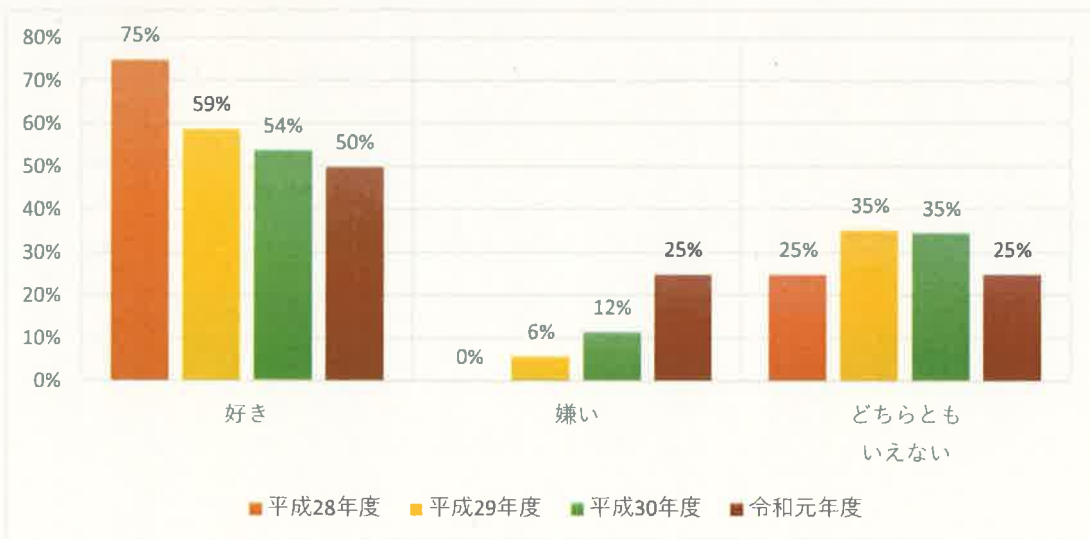
### ⑥図書館の利用頻度

	週に複数回	週に1回程度	月に2～3回	月に1回程度	年に数回程度	ほとんど利用しない
平成28年度	0%	13%	0%	38%	50%	0%
平成29年度	0%	6%	22%	19%	19%	34%
平成30年度	0%	0%	15%	15%	42%	27%
令和元年度	0%	5%	10%	5%	20%	60%



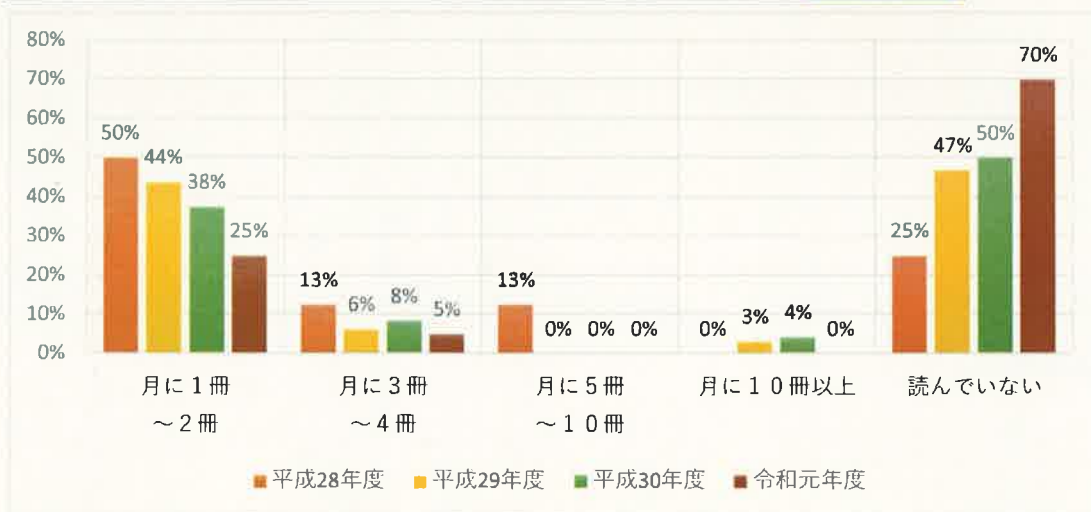
### ⑦本を読むことが好きか (保護者自身)

	好き	嫌い	どちらとも いえない
平成28年度	75%	0%	25%
平成29年度	59%	6%	35%
平成30年度	54%	12%	35%
令和元年度	50%	25%	25%



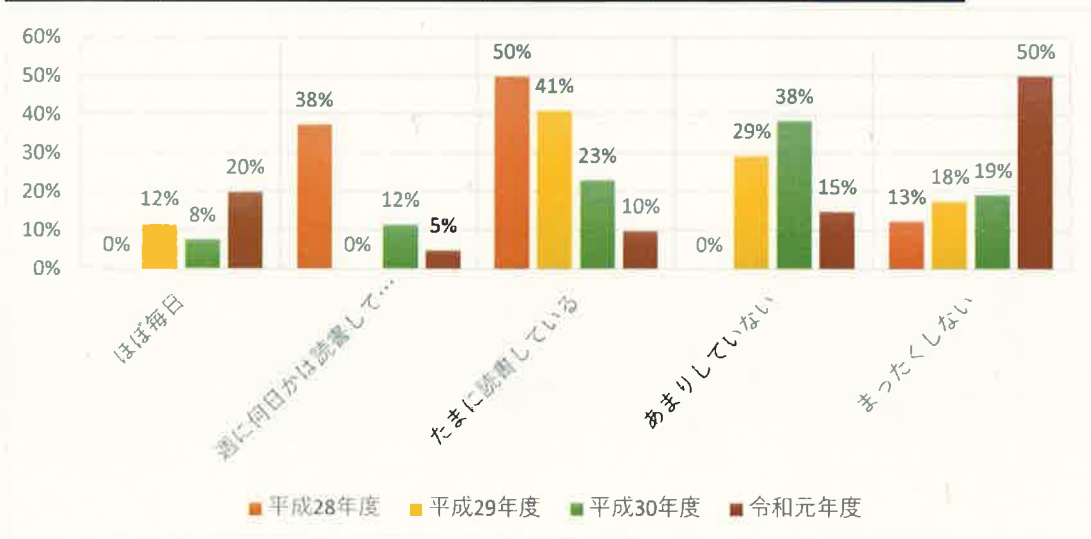
⑧どのくらい本を読むか(1か月)

	月に1冊 ～2冊	月に3冊 ～4冊	月に5冊 ～10冊	月に10冊以 上	読んでいない
平成28年度	50%	13%	13%	0%	25%
平成29年度	44%	6%	0%	3%	47%
平成30年度	38%	8%	0%	4%	50%
令和元年度	25%	5%	0%	0%	70%



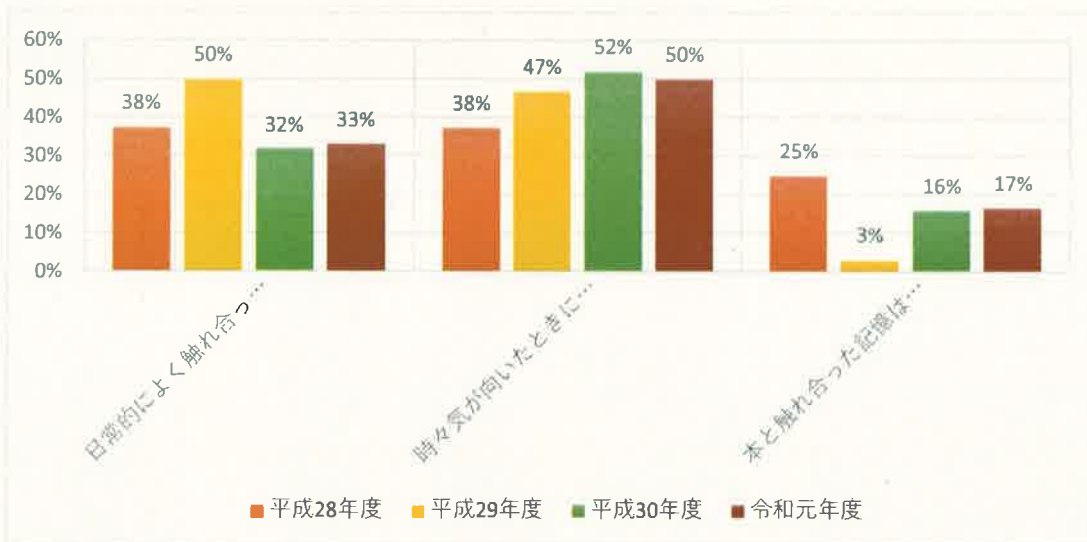
⑨普段どれくらい読書していますか

	ほぼ毎日	週に何日かは 読書している	たまに読書し ている	あまりしてい ない	まったくし ない
平成28年度	0%	38%	50%	0%	13%
平成29年度	12%	0%	41%	29%	18%
平成30年度	8%	12%	23%	38%	19%
令和元年度	20%	5%	10%	15%	50%



⑩子どもの頃、本にふれあった経験

	日常的によく触れ合っていた	時々気が向いたときに触れ合う程度だった	本と触れ合った記憶はあまりない
平成28年度	38%	38%	25%
平成29年度	50%	47%	3%
平成30年度	32%	52%	16%
令和元年度	33%	50%	17%

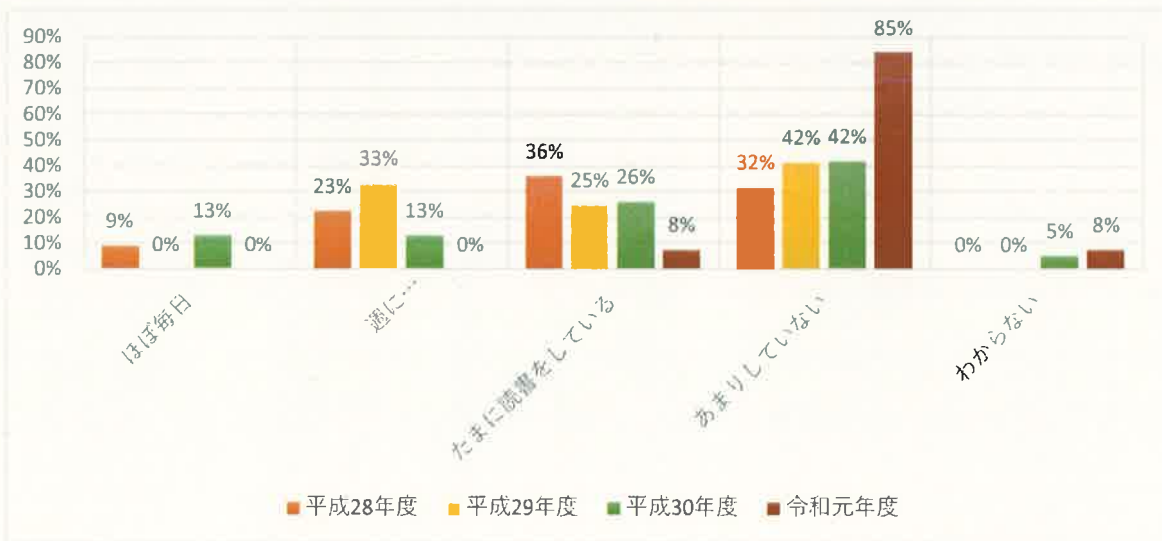


## 子どもの読書推進計画 読書アンケート経年変化(中2保護者)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	合計
人数	24	12	38	13	87

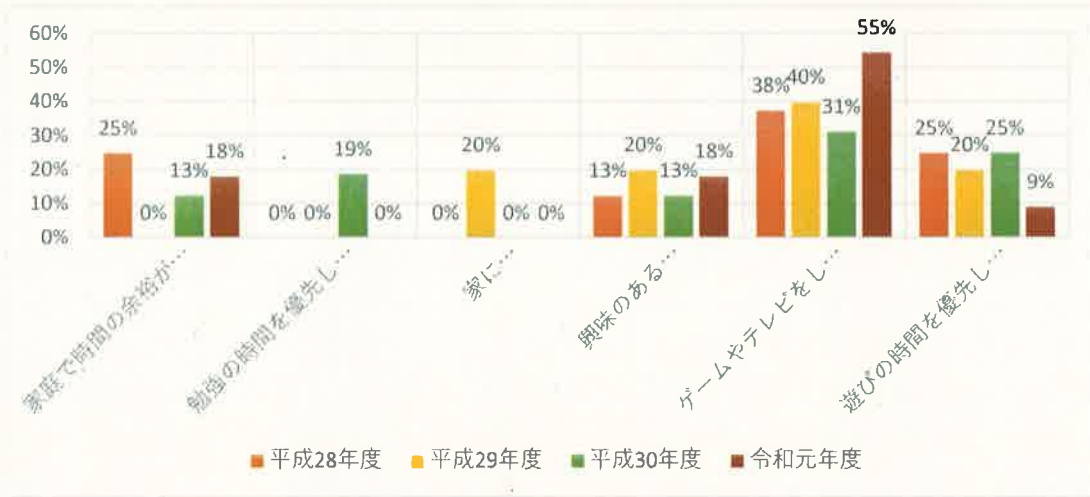
### ①自主的な読書について(1週間)

	ほぼ毎日	週に 何日かは	たまに読書を している	あまりしてい ない	わからない
平成28年度	9%	23%	36%	32%	0%
平成29年度	0%	33%	25%	42%	0%
平成30年度	13%	13%	26%	42%	5%
令和元年度	0%	0%	8%	85%	8%



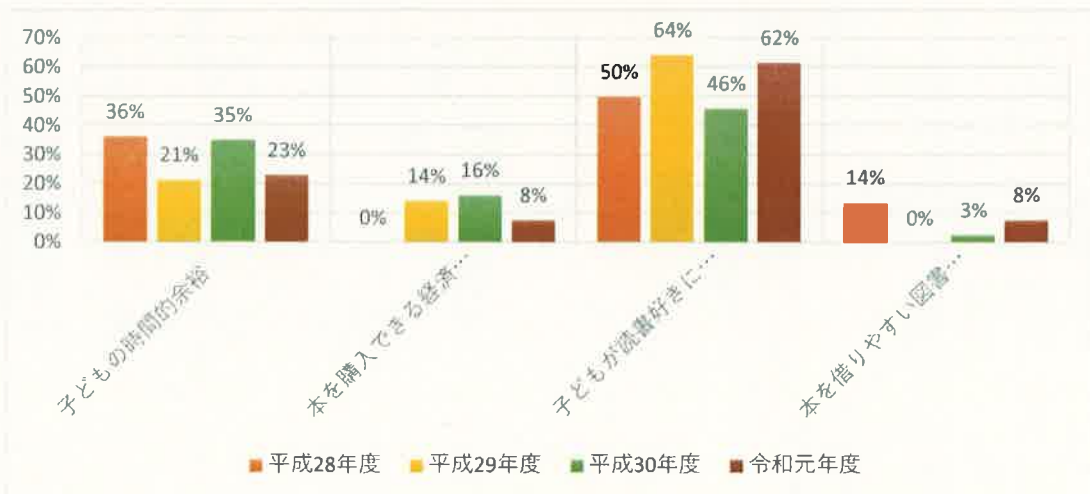
② ①に関して、読書していない人に質問

	家庭で時間の余裕がない	勉強の時間を優先している	家に本がないから	興味のある本を知らない	ゲームやテレビをしている	遊びの時間を優先している
平成28年度	25%	0%	0%	13%	38%	25%
平成29年度	0%	0%	20%	20%	40%	20%
平成30年度	13%	19%	0%	13%	31%	25%
令和元年度	18%	0%	0%	18%	55%	9%



③子どもが本に親しむために必要なこと

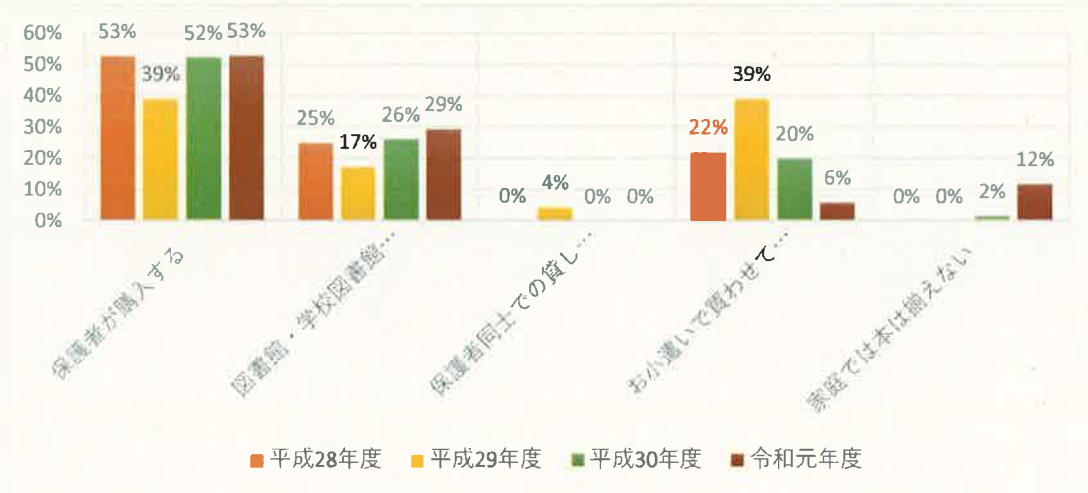
	子どもの時間的余裕	本を購入できる経済的余裕	子どもが読書好きになること	本を借りやすい図書館・学校図書館
平成28年度	36%	0%	50%	14%
平成29年度	21%	14%	64%	0%
平成30年度	35%	16%	46%	3%
令和元年度	23%	8%	62%	8%





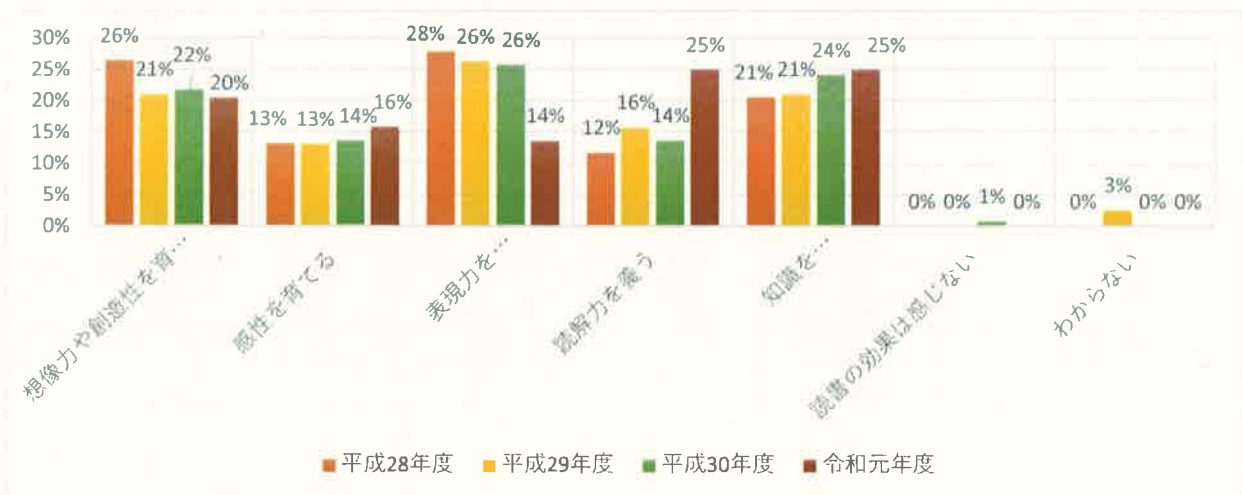
#### ④子どもが読みたい本、保護者が必要と考える本の揃え方

	保護者が購入する	図書館・学校図書館から借りる	保護者同士での貸し借り	お小遣いで買わせている	家庭では本は揃えない
平成28年度	53%	25%	0%	22%	0%
平成29年度	39%	17%	4%	39%	0%
平成30年度	52%	26%	0%	20%	2%
令和元年度	53%	29%	0%	6%	12%



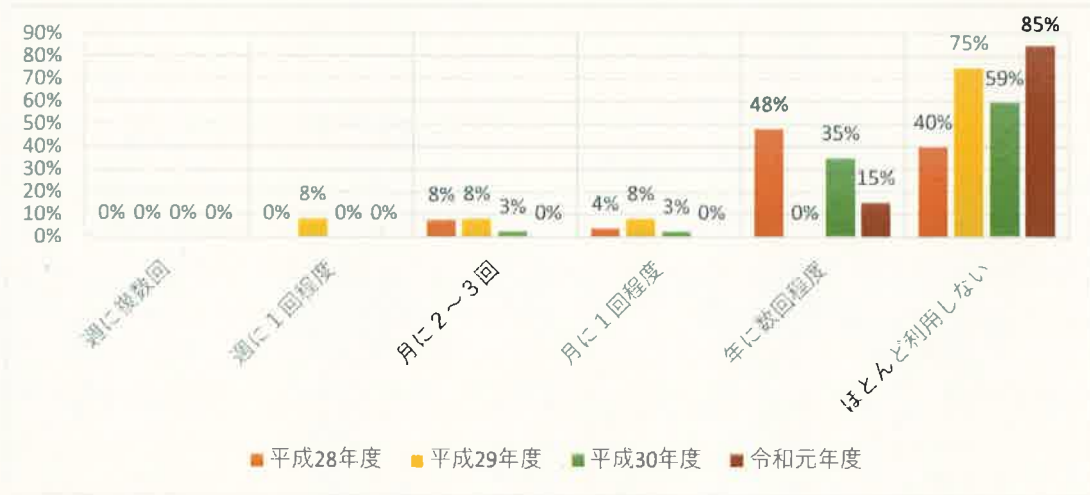
#### ⑤読書が子どもの成長にどんな影響を与えるか

	想像力や創造性を育てる	感性を育てる	表現力を育てる	読解力を養う	知識を豊富にする	読書の効果は感じない	わからない
平成28年度	26%	13%	28%	12%	21%	0%	0%
平成29年度	21%	13%	26%	16%	21%	0%	3%
平成30年度	22%	14%	26%	14%	24%	1%	0%
令和元年度	20%	16%	14%	25%	25%	0%	0%



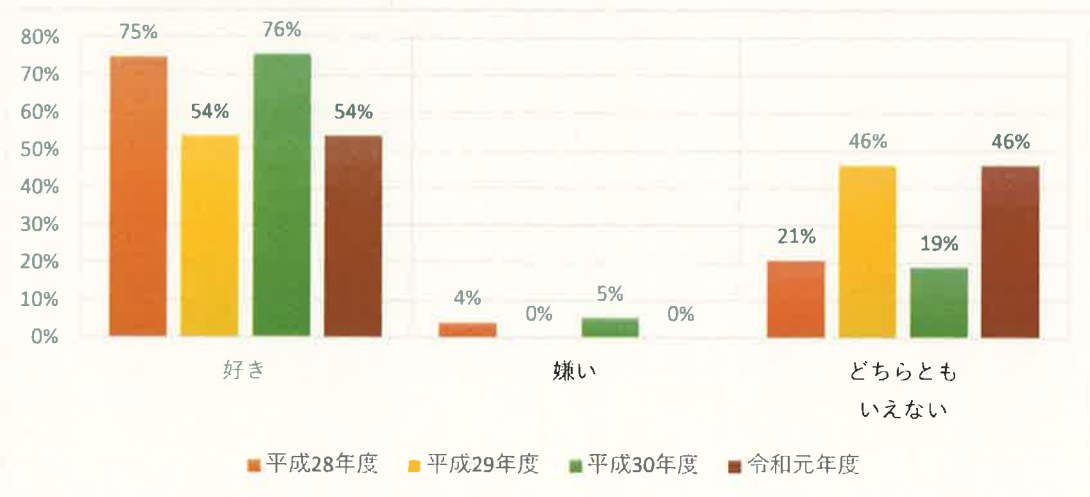
### ⑥図書館の利用頻度

	週に複数回	週に1回程度	月に2～3回	月に1回程度	年に数回程度	ほとんど利用しない
平成28年度	0%	0%	8%	4%	48%	40%
平成29年度	0%	8%	8%	8%	0%	75%
平成30年度	0%	0%	3%	3%	35%	59%
令和元年度	0%	0%	0%	0%	15%	85%



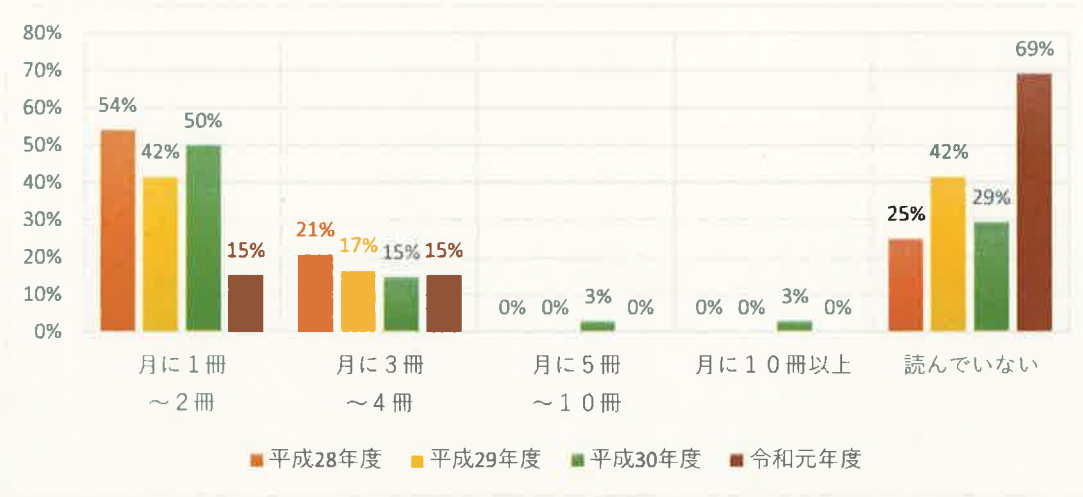
### ⑦本を読むことが好きか (保護者自身)

	好き	嫌い	どちらとも いえない
平成28年度	75%	4%	21%
平成29年度	54%	0%	46%
平成30年度	76%	5%	19%
令和元年度	54%	0%	46%



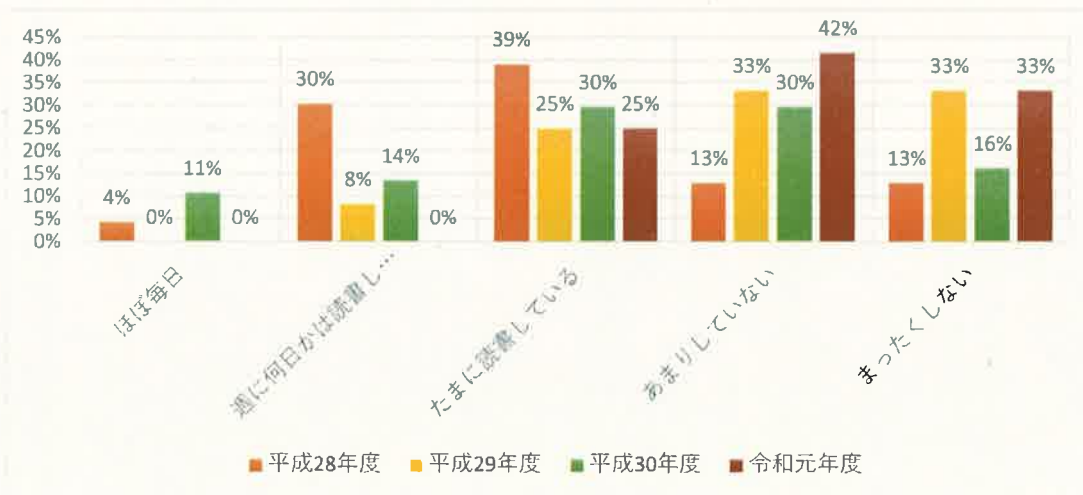
⑧どのくらい本を読むか(1か月)

	月に1冊 ～2冊	月に3冊 ～4冊	月に5冊 ～10冊	月に10冊以 上	読んでいない
平成28年度	54%	21%	0%	0%	25%
平成29年度	42%	17%	0%	0%	42%
平成30年度	50%	15%	3%	3%	29%
令和元年度	15%	15%	0%	0%	69%



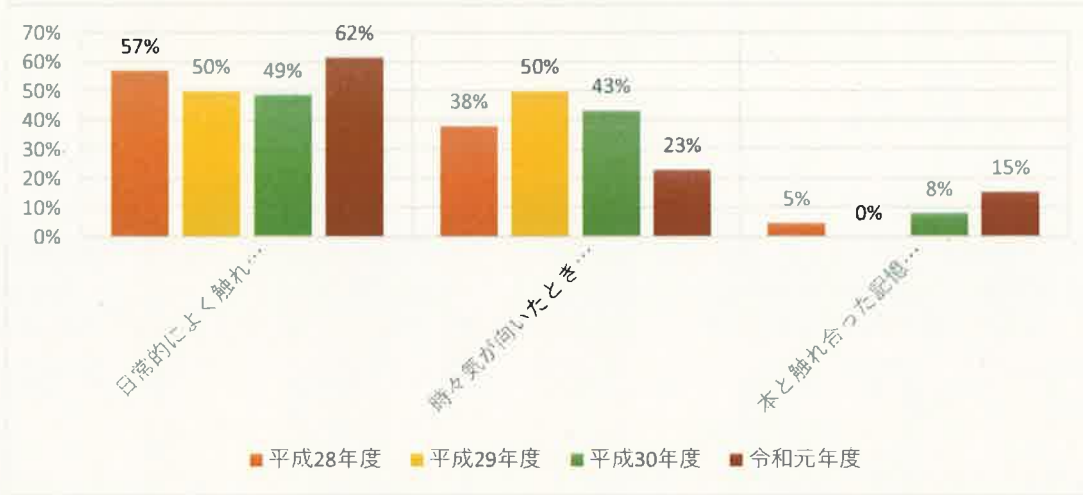
⑨普段どれくらい読書していますか

	ほぼ毎日	週に何日かは 読書している	たまに読書し ている	あまりしてい ない	まったくし ない
平成28年度	4%	30%	39%	13%	13%
平成29年度	0%	8%	25%	33%	33%
平成30年度	11%	14%	30%	30%	16%
令和元年度	0%	0%	25%	42%	33%



⑩子どもの頃、本にふれあった経験

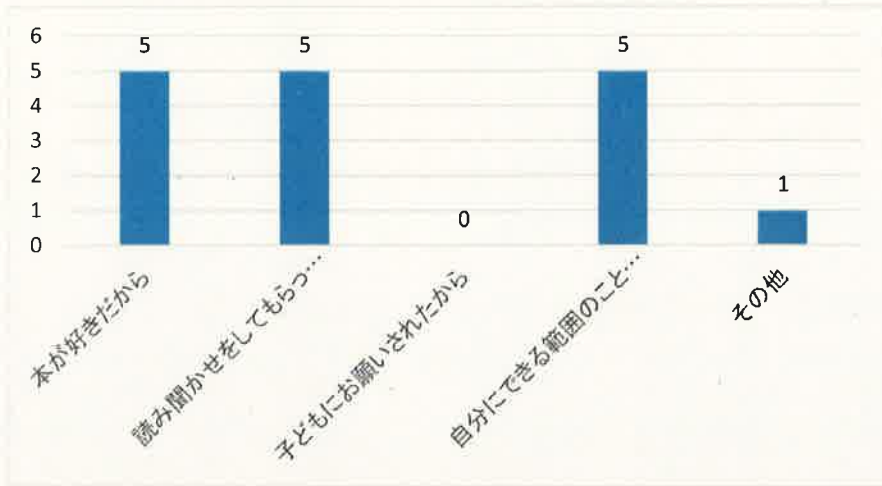
	日常的によく触れ合っていた	時々気が向いたときに触れ合う程度だった	本と触れ合った記憶はあまりない
平成28年度	57%	38%	5%
平成29年度	50%	50%	0%
平成30年度	49%	43%	8%
令和元年度	62%	23%	15%



上士幌小学校 読み聞かせボランティア アンケート集計  
 該当者…10名、回答者…7名

①「読み聞かせボランティア」をされたきっかけを教えてください。  
 (当てはまる回答すべて)

本が好きだから	読み聞かせを してもらったこ とがあったか ら	子どもにお願 いされたから	自分にできる 範囲のことだ から	その他
5	5	0	5	1

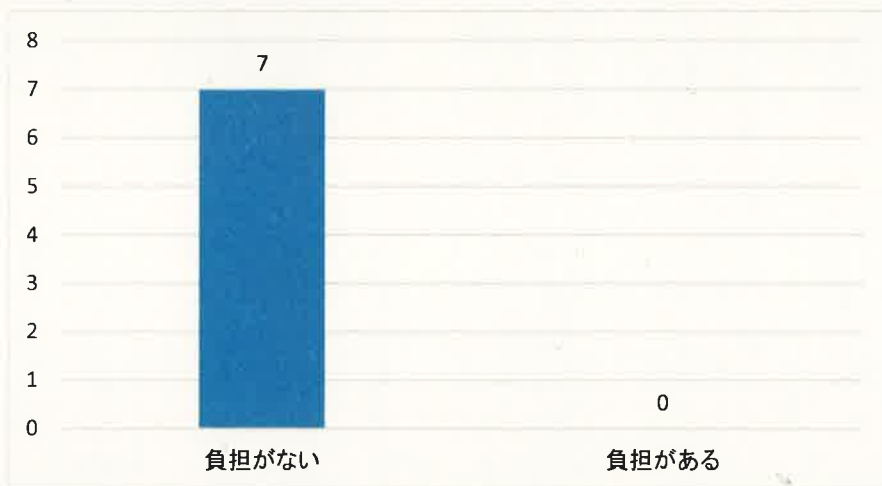


その他の回答

自分自身が小さい頃読み聞かせをしてもらった事が今でも覚えていて、とても良い思い出として残っていて、自分でも無理しないで自分のペースで参加できるからと思うので。

②「読み聞かせボランティア」の日程調整等は読書コーディネーターが行っている。現在の方法でご自分の負担になると思われることはありますか？

負担がない	負担がある
7	0

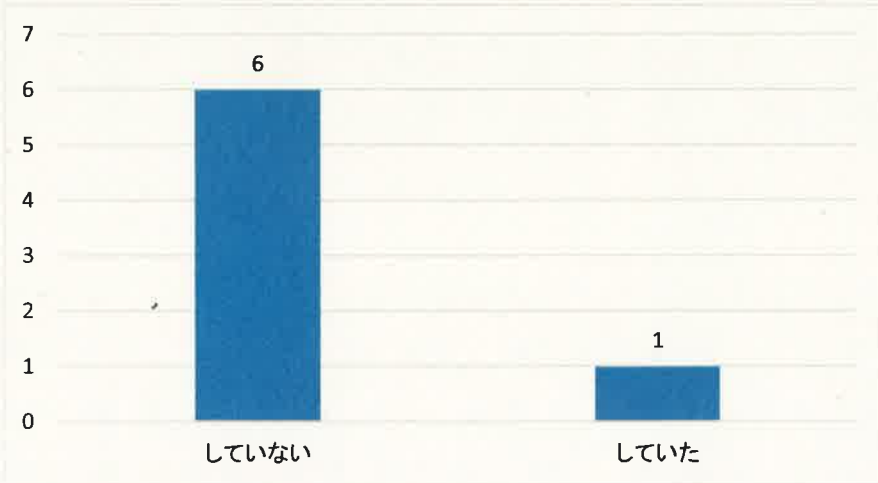


記述回答

負担感は全くないのですが、子どもが「いついつ空いてますよ。OKですよ。」の紙を提出していなかったことがある。子を介さず、直接やり取りOKでも私はかまわないのですが…。

③「読み聞かせボランティア」の日程調整等を読書コーディネーターが行っている。  
読書コーディネーターがいなかった場合は読み聞かせボランティアをされていましたか？

していない	していた
6	1



**記述回答**

・やはり読書コーディネーターの方がいなかったら、相談したくても先生方は忙しいだろうと思い、読み聞かせボランティアは参加していなかったと思います。  
・コーディネーターがいてこそ「学校とボランティアの間に入って調整する」ということができるのだと思います。一個人で学校にお願いして読み聞かせに入らせていただくことは考えられません。敷居が高すぎます。

**④「上士幌町図書館」を含めた読書環境についてのご意見・ご要望**

・入りやすくして良いですね。本までの物理的距離が近くて便利です。図書館も小学校の図書室も。新着コーナー、特集コーナー、返却された本の棚、好きです。何か読みたいけど、何がいいか、ぼんやり出会いを求めることもあるので、特集の充実をお願いします。  
・とても恵まれているかと思います。小さい頃から絵本等にふれると、本が好きになるかな、なって欲しいな、という親のエゴはさておき。(笑)本を通して親子でふれあう、接する、という良い機会になるのは確かかなと思います。電子読書に親(大人)が慣れてしまうのは、ちょっと残念というか、淋しい気がします。  
・子供からお年寄りまで、利用しやすく、本の種類もバラエティーにそろえてあって良いと思います。  
・読み聞かせの回数が増えたらありがたいが、子どもからお便りが届かないことがあるので、常時、決まっている人は直接連絡がほしいです。手紙、メール、電話など。(また、春の時に○曜日がよいとか○日がダメとか集計をとるなど)  
・この状況でしばらく図書館には行っていませんが、いつも壁などに、その季節のかざりつけなど、とてもかわいらしくて、図書館の職員さん達で色々工夫をしているなあいつも見ていました。イベントなどでも息子が参加しており、また再開したら行きたいなと思っています。  
・今は本を探す時、図書館にある端末で検索しますが、パソコンやスマホなどでできたら、と思っています。予約も含め。読み聞かせは、子どもに読書をすすめるためにとても良いことだと思っています。是非これからも続けてほしいと思います。  
・図書館に無い本も他の図書館より借りてもらえて、読みたい本が読めるのが嬉しいです。

大項目	施策		事業内容	計画全体の評価
	中項目	個別事業		
「いつも身近に本がある」環境づくり	有機的につながる読書のネットワークづくり	子どもの読書に関わる情報の共有する機会の創設	<p>実績</p> <p>社会教育委員の会議で図書館事業を報告。</p> <p>○図書館事業報告が中心となっている。 ○社会教育委員の会議以外の関係組織・団体との情報共有や連携の場面が少ない。</p>	<p>「ここまでの評価」「今後の課題や意向」等</p> <p>○情報を共有できる機会を増やすにはどうするかを検討する必要がある。 ○図書館イベントや読み聞かせの機会等も活用することを検討する必要がある。 ○様々な方からの本の紹介を実施してみようか。 ○こども園と小・中学校図書館担当者、学童指導員、図書館担当者一堂に会し「(仮称)子どもの読書担当者会議」を年に数回開催するとよいと思われる。 ○年に数回程度、子どもの読書に関わるお知らせを発信することを検討してみようか。 ○蔵書数が安定したことでパネルシアターやエプロンシアターなどを用意することができた。子どもたちは絵本や紙芝居以外でも物語にかかわることを楽しめている。 ○今後も劣化した本の更新や子どもの興味に合わせた新書を購入していく。蔵書数を安定させ、子どもたちのそばに本がある環境をつくり、本を好きになるきっかけづくりをしていく。 ○今後も継続が必要と思われる。 ○とても良いと思われるため、継続してもらいたい。 ○今後も絵本等の購入により、さらなる蔵書の充実が望まれる。 ○蔵書数が増加してきたようなので、今後については人気のあるパネリングセラーとなっている本の更新を新しい本の購入と併せて行うことが大事だと思われる。 ○園内の絵本等の不足分は図書館の活用で補うことも必要と思われる。 ○認定こども園と図書館には定期的な関わりが無い。 ○パネルシアターや紙芝居、しかけ絵本、布絵本、大型絵本等を図書館から定期的に貸し出しを行い、情報交換も定期的に行ってみようか。 ○読み聞かせなどの図書館行事に特別ゲストとしてALTYや国際交流推進員が参加し、読み手となるなどを検討してはどうか。</p>
	認定こども園における読書の充実方策	認定こども園の継続的な蔵書の充実	<p>平成28年度図書購入費 10万円 購入冊数 81冊</p> <p>平成29年度図書購入費 10万円 購入冊数 72冊</p> <p>平成30年度図書購入費 10万円 購入冊数 61冊</p> <p>令和元年度図書購入費 10万円 購入冊数 絵本 20冊 パネルシアター 3作品 エプロンシアター 2作品 パネル板 1つ</p> <p>令和2年度図書購入費 10万円 購入予定数 58冊 蔵書予定数 2621冊</p>	<p>○新書や劣化した本の更新のため夢基金活用し購入をしている。 ○子どもの興味に合わせて購入を検討する本が異なり、本によって値段差があるため購入冊数に差が生まれている。 ○令和元年度に至っては絵本の蔵書数が安定し、絵本とは異なる形で物語などに触れる機会を増やしたいという思いでパネルシアター・エプロンシアターを購入した。 ○ALTYや国際交流推進員による読み聞かせも行っているのので英語の絵本も増やしている。</p>

大項目	施策		事業内容	実績評価	計画全体の評価
	中項目	個別事業			
「いつも身近にある」環境づくり	小学校、中学校における図書の実方策	読書コーナーの配置	<p>上士幌小学校・中学校の目録電算化</p> <p>図書委員会・学習専門委員会活動の支援</p> <p>図書ボランティアへの活動依頼（読み聞かせ、ブックトーク、ブックスタート事業の紹介、図書の装備、図書室の環境整備）</p> <p>ブックトラック（移動式書架）の運用</p> <p>町立図書館への本の貸借依頼</p> <p>図書だよりの発行</p> <p>選書イベントの開催</p> <p>本の購入・登録手続き等学校用務代理</p> <p>読書アンケートの実施・集計・報告</p> <p>認定こども園での図書環境整備（予算は子ども課へ移行）</p> <p>放課後ほろんクラブでの読書推進事業（講師：十勝毎日新聞編集局長、斉藤博子氏）</p> <p>講演会の開催（講師：岸田典大氏、紺細工なつかし屋サクラ堂、よしながこうたく氏、とよたかずひこ氏、サトシン氏、原ゆたか氏、大友剛氏、沼田陽子氏、堀川真氏）</p> <p>絵本原画展の開催</p>	<p>小中学校の図書担当教諭と連携し、図書室の整備やブックトラック（移動式書架）、イベントや朝の読書活動等のシステム作りを行う。</p> <p>ハード部分のシステムは固まりつつある一方、学校用務と図書用務の線引きが曖昧といとなる部分があり、役割のブラッシュアップが必要。</p> <p>講演会については、読書アンケートでも好意的な意見が多く、年に一度程度、読書コーナーと図書館が中心となり、他の関係機関とも情報共有を計りながら事業を実施することが望ましい。</p>	<p>「ここまでの評価」「今後の課題や意向」等</p> <p>○「ブックトラック」は先生や子どもたちにとっても喜ばれている。（※児童会とも連携）</p> <p>○読書コーナーの配置により、毎日貸し出しをしてももらえるためとても助かっている。また、児童会にも参加してもらっているため小学校での取り組みを共有できてありがたい。可能であれば今後も同じようになりたい。</p> <p>○蔵書数が多くなるなど環境の整った生活に変わり、子どもたちも朝学習をはじめ、本に触れる機会が増えた。</p> <p>○講演会も大規模になり、興味を持って参加できる方も増えた。</p> <p>○図書館コーナーの存在も大きく、一生懸命に活動してくれることで子どもたちのために地域の方の協力も得られ活動の幅を広げてもらえたことはありがたい。</p> <p>○認定こども園・小学校・中学校が連携することで本にとっても良い効果があると思われる。今後縦のつながりで本の紹介や読み聞かせ、イベントなど楽しい取り組みがあってもよいと思われる。</p> <p>○今後も読書コーナーを配置し、選書イベントの開催や本の購入等連携して取り組んでもらいたい。</p> <p>○小学校・中学校ともに本の蔵書は拡大しており、特に低学年では「本が好き」とアンケートで回答する割合も増加している。一方で年齢が高まるにつれ、アンケートでも本を読むために図書館や学校図書室に行くという層が少なくなっている。</p> <p>○小学校高学年から中学生にアプローチするための人材はこれからは必要と考える。</p>



大項目		施策		事業内容		計画全体の評価	
中項目	個別事業	実績	実績	実績評価	「ここまでの評価」 「今後の課題や意向」 等		
「いつも身近に本がある」環境づくり	小学校、中学校における図書の実の方策	上士幌小学校の図書環境のさらなる充実	平成28年度図書購入費 805,000円 平成29年度図書購入費 1,192,819円 平成30年度図書購入費 1,196,793円 令和元年度図書購入費 479,859円 令和2年度図書購入費 360,000円	蔵書数 7,923冊 蔵書数 8,759冊 蔵書数 10,000冊 蔵書数 10,317冊 蔵書予定数 10,317冊	○平成29年度に秋ヶ岡小学校、令和元年度に糠平小学校が開校になったことに伴い、図書の蔵書率は年々高くなってきている。 ○令和2年度においては、すでに学校図書館図書標準を達成しているが、今後も予算措置を続け、図書の更新や入替を行うことで、学校図書館の内容充実を図る必要がある。	○更新や入替を行っているため、可能な範囲で予算を確保してもらいたい。 ○学校図書の充実は大変必要なことと思われる。 ○閉校した学校からの本の充実もあるが、展示を含めた図書室の充実がされており、年々素晴らしいものとなっている。 ○保護者にも声掛けをしての本の選書は良かったと思う。 ○本の保管ができるのか、更新や入れ替えをどのようにやるのかが課題だと思う。 ○学校でのプログラミング教育も進み、学びのスタイルも変化していくことが予想される。 ○小学校高学年からは家庭・学校以外で活動する時間が増え、物理的に本を借りることもや選ぶことが難しい場合も多く、電子書籍の活用も視野に入れたアプローチが必要と思われる。	
		上士幌中学校 図書の重点整備	平成28年度図書購入費 509,000円 平成29年度図書購入費 504,972円 平成30年度図書購入費 501,153円 令和元年度図書購入費 1,075,422円 令和2年度図書購入費 1,200,000円	蔵書数 5,597冊 蔵書数 5,941冊 蔵書数 6,094冊 蔵書数 6,889冊 蔵書予定数 7,739冊	○図書の整備率は、年々高くなってきてはいるものの、学校図書館図書標準は未だ達成できていない状況である。 ○今後も引き続き予算を措置し、蔵書冊数を増やしていく必要がある。	○図書の整備率が標準に達するように対応する必要があると思われる。 ○予算がつけば本を増やしていくのは良いことだが、保管する場所があるかが課題と思われる。 ○選書アンケート、選書イベントで生徒が関心のあつるものを選んで購入してもらいたい。 ○学校でのプログラミング教育も進み、学びのスタイルも変化していくことが予想される。 ○家庭・学校以外で活動する時間が増え、物理的に本を借りることもや選ぶことが難しい場合も多く、電子書籍の活用も視野に入れたアプローチが必要と思われる。	

大項目		施策		事業内容		計画全体の評価	
中項目	個別事業	実績	実績評価	事業内容	計画全体の評価	「ここまでの評価」 「今後の課題や意向」 等	
子ども自身が読書の大切さを実感できる取り組みの促進	全児童生徒で取り組み読書活動	<p>□「行事の前」「活動前後」「午睡前(帰りの会)」「自由遊び」「活動の区切り」「給食前活動」の導入などに絵本や紙芝居・パネルシアター、エプロンシアターを用いている。</p> <p>□PCTAによる読み聞かせ</p> <p>□「お話会カックウ」に來園してもらい読み聞かせを各学年一回行っている。</p> <p>□絵本の貸し出し</p> <p>□おすすめ絵本の掲示</p> <p>□ALLT、国際交流推進員による読み聞かせ</p>	<p>○未満児では「集中できる環境を整える」「場面にあった本を読む」「子どもの興味に合った本を選ぶ」「絵本を始めるときに歌う歌を統一する」「毎日繰り返し読む」等に気を付けて読み聞かせを行っている。そのことで絵本に親しみ、体を揺らしたり、真似をしたり、虫や花・鳥探し、語彙の増加にも繋がっている。</p> <p>○2歳児になると「大きなかぶ」「3匹のこぶた」などのまねっこ遊びへと発展する姿が見られている。全体の読み聞かせだけではなく、自由遊びの際に個人への読み聞かせを行うことでより本の内容に興味を持ち、繰り返し読んでいたり、自然物を外で発見した前後には図鑑や自然物が載っている本が人気になるので、文字を読めなくても絵本に親しみ、遊びへの発展が見られている。</p> <p>○2歳以上児では「声の抑揚と表情」「子どもの反応を見る」「わかちやすい言葉に変える」「問いかけをする」など工夫し、絵本を長い時間見られるようになってきたり子どもにもあった少し長めの物語を選ぶようになっている。絵本を読むことで遊びの発展にも繋がっており、「ちようちよごっこ」をしたり、「大きなかぶ」では孫や猫に名前を付けて読む、部屋の人形に絵本に出てきた登場人物の名前を付けるようになってきたり、部屋の姿が見られている。その他のクラスでは虫を捕まえて図鑑を見返している姿がある。今後はカブトムシの飼育を行う予定なので広がり期待している。</p> <p>○絵本を見ることが興味発見が広がり、年齢が上がると文字への興味、理解にも繋がっている。</p> <p>○絵本の貸し出しは家庭での親子の関わりや絵本の増加と一緒に選ぶことで保護者が子どもの興味を持ってほしいという思いで「おすすめ絵本」の掲示を行って、「絵本を借りる際の参考になっている」という意見も保護者から頂いたので今後も更新していきたい。</p> <p>○ALLT、国際交流推進員による読み聞かせは初めのうちは内容が分からない子ども、次第に単語を覚え日常でも「Hello」「hag please」「appleってりんごのことなんだよ」などという会話も生まれていて英語の絵本からも言葉を吸収する姿がある。</p>	<p>○各年齢ごとに時間のはらつきがあるが絵本に親しめるよう環境づくりや時間の確保等は職員一同意識して行っている。絵本から遊びが広がったり、反対に遊びでの発見を絵本で振り返るなど遊びの中でも絵本が大きな役割を果たしている。</p> <p>○子どもは文字が読めなくても絵で内容を考え読んでみようとしたり、目からの刺激を楽しんでいる。保育教諭に絵本を読んでもらうことで耳からの刺激となり、語彙増加に繋がっている。また、読み聞かせの時間が保育教諭と子どもとのスキミングとなり安心感や愛着形成にも大きな影響を与えている。</p> <p>○今後は職員やALTなどによる読み聞かせだけでなく、PCTAやお話会カックウなどの地域の方との触れ合いも楽しめる読み聞かせから絵本を楽しむ経験ができるようにしていくことが必要。</p> <p>○絵本の貸し出しは「おすすめ絵本」を掲示することで普段手にしない絵本にも興味を示し、目を通す姿がある。「おすすめ絵本」の掲示の仕方の工夫や「おすすめ絵本」の更新を行い、様々な絵本に興味を持てるようにしていく。</p> <p>○多くの子どもたちのなかにおいて、集中してお話を聞くことができようになる第一歩がこの時期と思われるため、活動を進めて頂きたい。</p> <p>○子ども園の幼少期は絵を見て言葉や歌を覚え、真似をしたり、虫や動物等の自然について学び、色々なことに興味を持つ大事な時期。絵本が生活する上で大事なことを学ぶ場になっているので、たくさん絵本に触れられる機会は貴重と思われる。</p> <p>○この時期にたくさんさんの本に触れ、興味を持ち、小学生になっても本に触れる生活が普通になって欲しい。そのためにもこの活動を継続してもらいたい。</p> <p>○多彩できめ細やかな取り組みがされていくと素晴らしい。</p> <p>○熱心な取り組みのおかげで小学校に上がる段階で「本が好き」と答える児童が多い。</p> <p>○小学校高学年になると「家庭で本を読む(家にある本を読む)」と答える児童の割合が多く、図書館の活動が家庭に浸透していないことも多い。そのため、図書館活用を家庭に広げるきっかけとする機会がこの時期に持たないかを検討してみたい。</p>			

大項目	施策		事業内容		計画全体の評価
	中項目	個別事業	実績	実績評価	
子ども自身が読書の大切さを実感できる取り組みの促進	全児童生徒で取り組み読書活動	全校児童生徒で取り組む「朝読」の取り組み	<p>□中学校では達成している。</p> <p>□小学校は、「上小っ子タイム」という朝の活動があり、読書だけでなく身体を動かす日等、学年・曜日ごとに活動スケジュールが設定されている。低学年を中心とした絵本の読み聞かせや、中学年・高学年向けのブックトーク、ブックススタート事業の紹介等、保護者・地域の図書ボランティアに協力いただきながら、朝の読書活動を行っている。</p>	<p>○10名前後の方が図書ボランティアとして、小学校での朝の読み聞かせを実施。</p> <p>○参加者が固定化されているため、新規参加者の獲得が課題となっている。</p>	<p>○学年に応じて内容を考えて頂けているのがあるが、たい。今後も実施してもらいたい。</p> <p>○小学校において今年度は週に1回「朝読」を全ての学年で実施している。</p> <p>○「ひとり読書」「図書委員からの読み聞かせ」「ボランティアからの読み聞かせ」と様々な工夫がされており、とても良い活動だと思われる。</p> <p>○ボランティアはそれぞれの時間や得意・不得意があるので、それをうまく調整し、有効的に活用していくことが必要と思われる。</p> <p>○ボランティアについて、積極的な図書担当教諭が担任をされている際には保護者の参加率が高かった。参観日やPTA総会等多くの保護者が集まる機会に周知できなかが検討してみようか。</p> <p>○毎朝同じ時間帯に10分程度、先生と児童が一緒に読む「朝読」は地味な活動だが、貴重な時間だと思われる。特に自分で選んだ本を読むことで、自分の関心・興味を知ることにもなり、本好きになる動機が形成されると思われる。</p>
		児童保育所で取り組む読書活動	<p>□長期休みの際の読み聞かせ。</p> <p>□お話会カックコウによる「お話会」への参加。</p> <p>□図書館職員による「絵本のトビラ」への参加。</p> <p>□毎年の約1万円の予算で5～6冊の図書を購入。</p> <p>□図書館へ保育中に子どもを連れに行く。</p>	<p>○長期休みの読み聞かせは先生間で担当日を決め、毎日それぞれが工夫して行うことができ、子どもたちも集中して聞くことができた。また、子どもたちも読み聞かせしてくれた。</p> <p>○「お話会」「絵本のトビラ」へ登所児童全員で参加することができた。</p> <p>○図書館へ行くときに積極的に声掛けし、本を借りたり、図書館内で本を読んだりして過ごすことができた。</p>	<p>○児童保育所は異学年の集まりなので大変だと思われるが、今後も読書に関するこの活動が必要と思われる。</p> <p>○児童保育所が移転する際の利点として図書館との複合施設ということが挙げられており、とても良い環境だと思ふ。</p> <p>○このまま継続して活動を行ってもらいたい。</p> <p>○図書館から児童保育所へのアプローチが少なくなっている。</p> <p>○土曜日開催の「絵本のトビラ」を平日とし、様々なゲスト（読み手）を活用することで、一層の盛り上がりを生むことができなかが検討してはどうか。</p>

大項目		施策		事業内容		計画全体の評価
中項目	個別事業	実績	実績評価			
子ども自身が読書の大切さを実感できる取り組みの促進	地域で進める子ども意識啓発	効果的な事業 周知	<input type="checkbox"/> 図書館日より <input type="checkbox"/> 図書館内、小学校、こども園、町内各所にポスター掲示 <input type="checkbox"/> 図書館内でのチラシ配布 <input type="checkbox"/> 利用者端末「お知らせ」で表示 <input type="checkbox"/> 町ホームページで表示 <input type="checkbox"/> 図書館内で利用者に直接声掛け	<input type="checkbox"/> 左記により周知を行うも、他行事と日程が重なるなどして、必ずしも多くの参加者を集めることができなかった。 <input type="checkbox"/> 各種行事の前後で、関連する本の展示（テーマ展示）を行うことで、利用者の興味・関心を引き出し、本の貸出につながるなど、行事と図書館利用の相乗効果が少なからず出ているといえる。	<input type="checkbox"/> 今後も継続していく必要があると思われる。 <input type="checkbox"/> イベントのお知らせの周知が弱い。図書館内にポスター掲示を行っても、来館しない方は見ない。積極的な周知が必要と思われる。 <input type="checkbox"/> 学校行事や季節のイベントに合わせて「テーマ展示」を行い、生徒の興味を引き出せるようにする。 <input type="checkbox"/> CCSレターに「かっこうさんのお話会」を取り上げてもらったり、「図書館だより」でお話会かっこうのインタビューを掲載するなどすることで、より多くの方とつながりをもてるようにする機会づくりを検討する。	「ここまでの評価」「今後の課題や意向」等
		新生涯学習センターの機能を活かした事業展開	毎年12月に開催しているお話会「カッコウ」のクリスマス会を、生涯学習センター改築以降、会議室4で開催している。場内を暗くし、スポットライトをあてて、絵本の読み聞かせ、ボードビル、パネルシアター、ジャンボ紙芝居などが行われた。いつものお話会と一味違った特別版。 ■上士幌町図書館の各年度の図書館資料購入費と蔵書数（実績） ・ H28 2,899千円、86,596冊 ・ H29 2,870千円、88,158冊 ・ H30 2,899千円、90,051冊 ・ R1 2,897千円、91,083冊 ・ R2 2,900千円、92,683冊 （H28～R1までは決算と実績、R2は当初予算と蔵書予定数） 「読書コーディネーター」としての利用では、平成30年2月24日実施「えほんの世界を楽しく食べよう！」実施時に調理室を利用しての絵本の食べ物作成や各種講演会、プロジェクターやピアノなどの利用がある。	<input type="checkbox"/> 複合的な施設としての利点として計画の中で目指していたのは、学童との連携等であった。 <input type="checkbox"/> 今後、例えば、学童に働きかけ児童による「図書係」や、保護者向けの図書館出張所文庫等を設ける等、様々な検討は可能と思われる。 <input type="checkbox"/> 窓のない会議室での開催は、暗いところで見ると「特別感」を演出できた。	<input type="checkbox"/> クリスマス会はとても良い事業だと思われる。 <input type="checkbox"/> 施設をより活用し、楽しい事業ができると良い。 <input type="checkbox"/> 読書と食育をつなげる企画は良い企画だと思われる。年間で様々な本を活用したり、一冊の本で数回実施するなどし、本にある実体験を行うということからは面白い試みだと思われる。 <input type="checkbox"/> 今後、保護者向けの「図書館出張所」や「パスファインダー」を学童保育所の児童と一緒に作成するなどの取り組みを検討したい。	

施策		事業内容		計画全体の評価
大項目	中項目	個別事業	実績	
子ども自身が読書を大切にする意識を高める取り組みの促進	地域で進める子ども意識啓発	北海道家庭教育サポーター企業との連携した取り組みの促進	<p>実績</p> <p>□CS 登録企業への廃棄本の配布 上士幌小学校図書室の除籍本を町内の北海道家庭教育サポーター企業に配布。</p>	<p>「ここまでの評価」「今後の課題や意向」等</p> <p>○除籍本の活用はありがたい。 ○今後も連携した活動を継続することは必要と思われる。 ○仕事の紹介等と本と合わせるといった内容は実体験ができるといい点で良い。そのような機会を設けて頂きたい。 ○朝読を継続していく。 ○本と一緒に本に関連した人等を紹介する「人的資源の活用」を行うことの方が効果的と思われる。 ○北海道家庭教育サポーター企業の一覧を図書館に掲示してはどうか。 ○登録企業の職員に放課後ほろくらぶなどで協力して頂き、「アイスクリーム屋さん」の仕事を本と紹介するといった「人的資源の活用」等を検討してはどうか。</p>
			<p>実績評価</p> <p>○OCSの参加団体企業に朝の読書活動の実施呼び掛けや廃棄本の配布等を行った。 ○計画では恵庭市のような街の中での図書環境の充実を目的としていたと思われるが、廃棄本の評判は良くなかった。 ○今後については、登録企業の職員に放課後ほろくらぶなどで協力して頂き、「アイスクリーム屋さん」の仕事を本と紹介するといった「人的資源の活用」の方が、学校にも企業にも望まれているように思われる。</p>	

大項目		施策		事業内容		計画全体の評価	
中項目	個別事業	実績	実績評価	実績評価	「ここまでの評価」 「今後の課題や意向」 等		
家庭での読書を広げていく取り組み	保護者の意識を高める取組の推進		<p><b>H28</b></p> <p>2/2 絵本パフォーマー岸田町連合PTAとの共催により、教育講演会を実施。 講師：絵本パフォーマー岸田氏 131名参加</p> <p>3/18 図書館事業「えほんのトビラ」と連携し、イベントを実施。 講師：館細工なつかし屋サクラ堂 60名参加</p> <p><b>H29</b></p> <p>10/14 「よしながろうたくさんと絵本の世界を楽しもう！」 80名参加</p> <p>2/24 「絵本の世界を楽しく食べよう！」 21名参加</p> <p><b>H30</b></p> <p>5/20 「ももんちゃんとおそぼう！inかみしほろ」北海道文学館共催 講師：とよたかずひこ氏、岸田典大氏 ワークショップ 100名参加 / 講演会 54名参加</p> <p>7/15 「絵本&amp;おとてて絵本のしくよみまショー」 講師：サトシン氏 講演会 29名参加</p> <p>7/22 「かいけつゾロリの原ゆたか先生お絵かき会+講演会」 講師：原ゆたか氏 ワークショップ 50名参加 / 講演会 83名参加</p> <p>9/29 「マジックと音楽と絵本のコンサート」 講師：絵本作家・マジシャン 大友 剛氏 講演会 56名参加</p> <p>10/22 「絵本を学ぼう！絵本の研修会」 講師：帯広図書館司書 沼田陽子氏 研修会 14名参加</p> <p>10/27～11/9 「ふぁいたーず絵本原画展」 芳名帳記載数 145名 / ワークショップ 12名参加</p> <p>10/27 「真先生の工作教室」 講師：絵本作家 堀川真氏</p> <p>□その他講演会事業 「親子で楽しく遊びましょう」「絵本の読み聞かせ研修会」「絵本作家・児童文学作家講演会」</p> <p>平成29年度から3年間にわたって、3歳未満の乳幼児図書館の保護者を対象に、絵本・わらべ歌・紙芝居を介した親子遊びを学ぶ図書館子育て講座「親子で楽しく遊びましょう」を開催。講師については、札幌のNPO法人「北海道子育て支援ワーカーズ」から2名の講師を招聘。親子遊びが豊かな親子関係を築き、子どもの健やかな成長を促すことを保護者に理解してもらおうことが目的。</p>	<p>○講演会は読書アンケートでも「次回こんなイベントを行ってほしい」と、子どもや保護者からの記載が多く、読書欲を高める起爆剤的な契機になると感じた。</p> <p>○町のブックスタート事業で配布される絵本と並んで、親子遊びが子どもにとって、やがて読み聞かせに親しむ段階を経て、本好きになっていく素地を作ることが期待される。</p>	<p>○保護者の意識を高めるということは大変難しいことだが、今後も活動は継続するべきだと思われる。</p> <p>○これまでは予算の関係もあり、絵本作家を招いての事業を実施するということは限られた機会であったが、平成28年度からは多くの講師を招くことができ、心に残る体験ができたということは間違いないと思われる。</p> <p>○子どもと一緒に参加型の体験や見せたいという内容のものが多く実施された。今後も継続してきたい。</p> <p>○親子おすすめ本や「〇歳の本棚」等、様々な世代で本が活用できると意識できる機会をつくることを検討してはどうか。</p> <p>○作家を講師とした講演会は作家や作品を知っている参加者が作品世界への理解と親しみを深める大きな喜びとなるとともに、作家や作品を知らない参加者にとっては未知なることに触れ、本に親しむきっかけになりうる。講演会前後における「としよかんだより」での紹介やポスター・チラシ、テーマ展示等あらゆる方法で作家と作品の情報発信を行うことが大切だと思われる。</p>		

大項目		施策		事業内容		計画全体の評価
中項目	個別事業	実績	実績評価	実績評価	「ここまでの評価」「今後の課題や意向」等	
家庭での読書を広めていく取り組み	保護者の意識を高める取り組みの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>□各講演会冒頭において、課長より読書推進計画の策定を行ったこと、読書推進イベントはその一環であることなどを冒頭で紹介。</li> <li>□図書館子育て講座「親子で楽しく遊びましよう」の関連本の展示をはじめとして、「児童書」や「絵本」、「子どもの読書」などをテーマとした展示を年間複数実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事業が単発での取り組みも多かったため、「イベント後、作家へお礼の手紙を子どもたちから発信してもらい、作家と交流を深める」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者は講座等の機会を好み、熱心に参加し、興味を示してくれると思うが、近年は動く保護者の増加があるため開催日時を検討する必要があると思われる。</li> <li>○今後については作家と交流を深めるような取り組みも検討してはどうか。</li> </ul>	「ここまでの評価」「今後の課題や意向」等	
	地域における保護者の支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>【CS登録企業への廃棄本の配布】</li> <li>□図書館の廃棄本を企業へ配布。</li> <li>□廃棄本が出るときには、学校図書館の本も企業や公共施設へ配布。</li> </ul> <p>商店街・飲食店・入浴施設等、町民が日常的に足を運ぶ場所において、親子で絵本を楽しめる環境整備は行っていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○CSの団体企業のなかで朝の読書活動や廃棄本の配布などを行った。</li> <li>○計画では恵庭市のような街の中で図書環境を充実させることを目的としていたようだが、廃棄本の評判は良くなかった。</li> <li>○登録企業の方を放課後ほろくらブなどで招き、「アイスクリームやさんの仕事」を本と紹介するなど、人的資源の活用の方が、学校にも企業にも望まれているように感じた。</li> <li>○第一期の計画の案と実態が乖離しており、地域のニーズと学校のニーズをすり合わせ、放課後や朝読みの時間へ積極的に地域の大人を巻き込むことで、地域全体で取り組む読書活動へシフトしていくことが求められている。</li> <li>○子どもたちが主体的にかかわる活動、親子で楽しく参加できる活動の工夫が必要だと思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の商店街に本を置いてもらいたい。</li> <li>○ハレタや道の駅に図書館の利用案内を設置してもらってはどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○図書館イベントが「楽しい」「参加したい」と定着されるようにこれからのイベントを工夫し、周知してもらいたい。</li> <li>○一人でも「図書館に行きたい（寄りたいたい）」と思ってもらえるような小学校高学年から中学生に向けたアプローチが必要と思われる。そのための環境づくりも検討してもらいたい。</li> </ul>	
	子どもの居場所となる図書館づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>巡回文庫以外の学童との貸し出しが増加。</li> <li>□児童書・絵本・DVDの充実</li> <li>□赤ちゃん連れの利用に向けた、赤ちゃん絵本の充実、ベビーカーの配置、お話のへや（靴を脱いで、親子がくつろげる空間）の開放。</li> <li>□「めざせ！としょかんクイズ王」「お話し会」「めざせ！昆虫博士」「映画会」「図書館体験の日」等、子どもが図書館で楽しめる行事の開催。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもたちが主体的に関わる活動、親子で楽しく参加できる活動の工夫が必要だと思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○図書館イベントが「楽しい」「参加したい」と定着されるようにこれからのイベントを工夫し、周知してもらいたい。</li> <li>○一人でも「図書館に行きたい（寄りたいたい）」と思ってもらえるような小学校高学年から中学生に向けたアプローチが必要と思われる。そのための環境づくりも検討してもらいたい。</li> </ul>		

大項目		施策		事業内容	計画全体の評価
中項目	個別事業	実績	実績評価		
家庭での読書を広めていく取り組み	地域における保護者の支援体制の充実	<p>祝日開館の実施</p> <p>平成27年度から施行が始まった（月曜日を除いた）祝日開館は、この5年間で祝日開館日ごとの利用は伸びてきている。</p> <p>「開館時間の延長（夜間開館）」が本計画に掲載されているが、夜間開館実施への具体的な検討はしていない。</p>	<p>○未就学児の保護者が貸読めされた「楽しい本」「親子で読む本」等を選ぶようなパッケージ貸し出し等の導入の検討が必要と思われる。</p> <p>○職員室へ学校の先生におすすめしたい本やリクエスト本を届ける「職員室文庫」やその企業版などの利用しやすい図書館づくりを実施することで、開館時間や祝日開館よりも、「本と触れ合う機会の増加」や「本を選ぶ時間の短縮」などといった利用者ニーズをより丁寧にくみ取ったサービスの提供とそのサービスを提議できる体制づくりが必要と思われる。</p> <p>○祝日開館によって年間の回数が増えたが、年間の利用増には至っていない。</p> <p>○夜間開館については具体的な検討はしていない。今後は、調査・検討が必要。</p>	<p>「ここまでの評価」「今後の課題や意向」等</p> <p>○選びやすい展示や色々な方からの本の紹介や興味毎のおすすめ本や楽しめるPOPなどの工夫を今後も継続してもらいたい。</p> <p>○「今月は農協の方」「来月は〇年生（または保護者）」等と本を紹介する方が色々と変わる方式である新たな興味がうまれるのではないか。</p> <p>○祝日にクイズラリーなどを行い、図書館に集まるきっかけをつくるというのではないか。</p> <p>○夜間開館は「限定」で試行し、実際に利用があるのかを検証することが有効ではないか。</p> <p>○忙しい方に向けて、より短時間で本を選べたり、貸し出しができるサービスを検討してはどうか。</p>	



## 上士幌町第2期子どもの読書推進計画

発行 上士幌町教育委員会

編集 上士幌町図書館

〒080-1408

北海道河東郡上士幌町字上士幌東3線237番地

電話番号 01564 (2) 4634

Fax 番号 01564 (2) 3180